中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第14集

横尾地区遺跡群Ⅲ

－県営ほ場整備事業横尾地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概報－
中沢遺跡Ｃ区・桃瀬遺跡Ｂ区

1996.3
群馬県中之条町教育委員会

序

群馬県北西部の吾妻郡に位置する中之条町は、文化・交通の要所として、豊かな自然環境のもとで古代から現代にまで渡って発展してきており、今日までの道筋は各方面のアプローチにより次第にはっきりとしてきています。

近年の埋蔵文化財発掘調査におきましても、厚手の本を一頁ずつ捲って行く様に新たな歴史が目前に現れてきています。そして、その埋蔵文化財発掘調査に直接・間接に参加して頂いた方々も増えてまいりました。このこと自体が、いにしえからの文化を後世に伝えて行くための大切な事であり、埋蔵文化財発掘調査の意味する所でもあります。

さて、県営ほ場整備事業横尾地区に伴う埋蔵文化財発掘調査においても、古代の遺跡が確認されています。今回中沢遺跡Ｃ区と桃瀬遺跡Ｂ区において確認された住居跡も、名久田川流域に広く展開する集落跡の一部として位置づけられます。そして、さらに中之条町で確認されている遺跡との関係や群馬県北西部での位置づけなど、各地域との比較のための資料としてこの遺跡の概要を報告させていただきます。

いにしえから現代に至るまでという時間の縦糸と、今回調査された住居跡の時代の文化という横系の一部として、この成果が現代から未来への文化の発展の中で、研究・教育等に活かされますことを念じてやみません。

最後になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたりご指導、ご協力を頂きました関係各位に対して深く感謝申し上げます。

平成８年３月２９日

中之条町教育委員会

教育長　中澤　恒夫

例　言

1　本書は、県営ほ場整備事業横尾地区に伴い、中之条町教育委員会が平成６年度に実施した、横尾地区遺跡群中沢遺跡Ｃ区及び桃瀬遺跡Ｂ区の発掘調査概要報告書である。

2　中沢遺跡Ｃ区の発掘調査は、平成６年５月１６日から平成６年８月１０日まで行い、桃瀬遺跡Ｂ区の発掘調査は、平成６年１２月５日から平成７年３月３１日まで行った。両遺跡の遺物整理は平成６年度及び平成７年度に行い、報告書の作成は平成７年度に行った。

3　発掘調査は、群馬県渋川土地改良事務所の委託を受けて、中之条町教育委員会が実施した。

4　発掘調査の経費は、渋川土地改良事務所からの委託金、国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金、群馬県文化財保存事業補助金及び町費を充てた。

5　調査組織は以下の通りである。

教育長	中澤　恒夫
社会教育課長	植木　正勝
社会教育係長	水出　隆夫
社会教育課主事	山田　俊彦（調査担当）

6　本書の執筆及び編集は、山田俊彦が行った。

7　遺構実測図のトレース及び挿図作成は、福嶋美佐（社会教育課主事）を中心に小渕幸子、清水夏子が行なった。

8　遺構の写真撮影は、福嶋美佐、山田俊彦が行った。遺物の写真撮影は須崎幸夫（社会教育課主事）が行った。

9　本調査における記録・出土遺物については、中之条町教育委員会が保管している。

10　調査並びに本書の編集に際しては、下記の方々にご指導ご協力頂いた。（敬称略）
群馬県教育委員会、渋川土地改良事務所、株式会社測研

11　発掘調査の協力者は下記の通りである。（５０音順・敬称略）
青柳七郎・伊東貴代子・入澤芳子・清水夏子・関トシエ・田村さだ・冨澤美野留・生須博・浜野住次
原沢とし子・星野麗子・山本芳雄・綿貫絢子・綿貫宮子

凡　例

1　遺構実測図中の断面基準線は標高で表わし、方位記号は座標北を示す。

2　グリッドについては国家座標を用い、表記については座標値の下３ケタを使用している。

（例）　０１０－３４５Ｇ：Ｘ＝６７０１０・Ｙ＝－８６３４５

3　遺構実測図の縮尺は次の通りであるが、一部に例外もある。

全体図　１／４００　　住居跡・土坑・溝状遺構　１／６０

4　遺構・遺物写真の縮尺は統一していない。

目　次

序

例言

凡例

目次

報告書抄録

Ⅰ　調査に至る経緯・・・

報 告 書 抄 録

ふりがな	よこおちくいせきぐん
書名	横尾地区遺跡群 Ⅲ
副書名	県営ほ場整備事業横尾地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概報
巻次	
シリーズ名	中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第14集
編著者名	山田俊彦
編集機関	群馬県中之条町教育委員会
所在地	〒377-04 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1091 TEL 0279-75-2111
発行年月日	西暦 1996年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
中沢遺跡C区	群馬県吾妻郡中之条町大字横尾	10421				19940516 19940810	1,300	県営ほ場整備
桃瀬遺跡B区						19941205 19950331	100	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中沢遺跡C区	集落跡	古墳時代 ～ 平安時代	竪穴式住居跡 15軒 土坑 6基 溝跡 2条	土師器 坏・埦・甕 須恵器 坏・埦 鉄製品 鉄鏃・刀子 石製品 紡錘車・臼玉	
桃瀬遺跡B区			竪穴式住居跡 3軒 土坑 1基	土師器 甕	

Ⅰ　調査に至る経緯

県営ほ場整備事業横尾地区は、中之条町の東部、名久田川の右岸に位置しており、約１５４．２ｈａの面積を占めている。この地区には、奥山原遺跡、長久保遺跡などの周知の遺跡が多数存在しているほか、平成２年度に行った本地区の分布調査により、埋蔵文化財の包蔵地が広範囲に及んでいることが明らかになった。このため、渋川土地改良事務所及び町農林課土地改良係と協議を行った結果、道水路部分及び遺構が破壊される切土部分については、埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなった。

Ⅱ　遺跡の位置と周辺遺跡

中之条町は、県の北西部を流れる吾妻川北岸に位置し、１県２郡７町村に接している。北に新潟県南魚沼郡湯沢町、西に六合村、南に吾妻町、南東に東村及び北群馬郡小野上村、東に高山村、北東には利根郡新治村である。地図の中の中之条町は、『東側を“かなめ”にして東西方向に置いた扇を北に向かって４５°ほど広げた』形に見える。南東方向から西・北西方向にかけては、末広がりに奥行きのある地形となっている。

南東の小野上村方面から国道３５３号線で中之条町に入って来ると、町並の北に嵩山(７８９ｍ)があり、中之条盆地の北側に聳えている。南の吾妻町金井方面から中之条町を望むと嵩山だけではなく蟻川岳（８５３ｍ）の存在も大きく見える。

中之条盆地は屏風状で南東に口を開いた馬蹄形状に続く山々に囲まれている。北から稲包山(１５９７ｍ)、北西に相ノ倉山(１５６７ｍ)、西に暮坂峠（１０８８ｍ）とこの辺りでは比較的高い海抜の山が続く。南には吾嬬山(１１８１ｍ)、薬師岳（９７４ｍ）がある。南東には十二ケ岳（１２００ｍ）が、そして北東から北へは大道峠（８３０ｍ)、赤沢山（１４５４ｍ）から前記の稲包山へと続く。

中之条町には大小の河川が流れる。町の中央部を北から南に流れる四万川が、町の南を西から東に流れる吾妻川に流入する。この四万川には西から東に流れる上沢渡川が合流している。別に名久田川が北東方向から南西方向に流れ、吾妻川に流入する。この名久田川は、中之条町の東側の町村境を超えた高山村からの流入である。

中沢遺跡Ｃ区は横尾地区の北東部に位置し、名久田川右岸の河岸段丘に連なる丘陵の東側斜面に立地する。調査区の海抜は３８２ｍから３８８ｍで、狭い範囲に住居跡が段々畑状にほぼ３段に存在するのが確認された。桃瀬遺跡Ｂ区は、地区南側を東流する桃瀬川の右岸に位置する。調査区の現状はともに畑であった。

これまでに実施した県営ほ場整備事業横尾地区に伴う調査としては、七日市遺跡Ａ・Ｂ区、中沢遺跡Ａ区、小塚遺跡があるが、この他に周辺地域で中之条町教育委員会が調査を行った遺跡としては、天代瓦窯遺跡、名久田８号古墳、大塚遺跡群の五十嵐遺跡・宿割遺跡、平遺跡群の下平遺跡・下尻高遺跡・菅田遺跡、伊勢町地区遺跡群（上原遺跡・天神遺跡・川端遺跡）が挙げられる。

Ⅲ　調査の方法

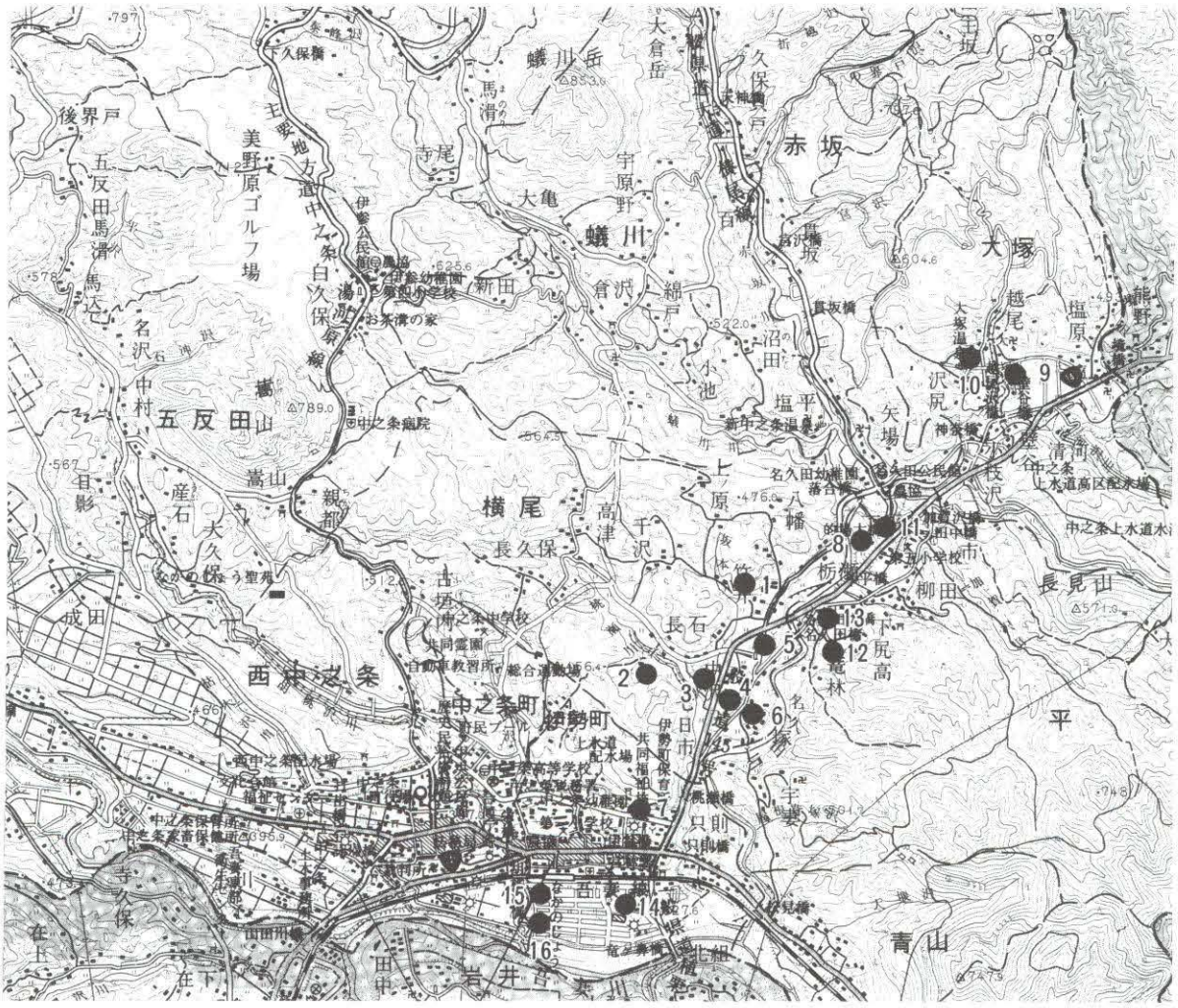
中沢遺跡Ｃ区の調査は、試掘調査の結果をもとに本調査の範囲を設定し、遺構確認面までの深さを参考に廃土場所の確保を行い、重機による掘削から着手した。調査区が傾斜地であるため、確認面までの掘削は特

に慎重に行ったが、すでに耕作によって攪乱を受けていたこともあって、この時点で削平された遺構もあった。

重機による掘削と作業員による確認面の精査を平行し、プランの確認を行った。確認されたプランは石灰にて線引きした。調査区全体の確認を終えた後、遺構調査前の全景写真を撮影し、基本土層の記録を行った。

遺構の調査は、覆土に浅間－粕川テフラ（以下粕川テフラと略記）を含む遺構から開始した。この作業の終了後、榛名－渋川テフラ（以下ＦＡと略記）を含む遺構を調査した。調査は複数の遺構を平行して行い、図面作成、写真撮影、遺構の観察等を順次行った。特に残存状態の良いカマドについては、１／１０の縮尺でカマド図を作成した。基本的には掘り方まで調査を行って各遺構の調査を終了し、最終的には完掘状態の調査区全体図を作成し、全景写真の撮影後に遺跡の調査を終了した。

桃瀬遺跡については、工事計画に基づいてＡ・Ｂ区と区割りし、道水路部分を対象に試掘調査を実施した。



1中沢遺跡Ｃ区　2桃瀬遺跡Ｂ区　3七日市遺跡Ａ区　4七日市遺跡Ｂ区　5中沢遺跡Ａ区　6小塚遺跡
7天代瓦窯遺跡　8名久田８号古墳　9五十嵐遺跡　10宿割遺跡　11下平遺跡　12下尻高遺跡　13菅田遺跡
14上原遺跡　15天神遺跡　16川端遺跡

第１図　遺跡の立地と周辺遺跡（１/50,000）

第2図 遺跡調査区設定図(1／5,000)

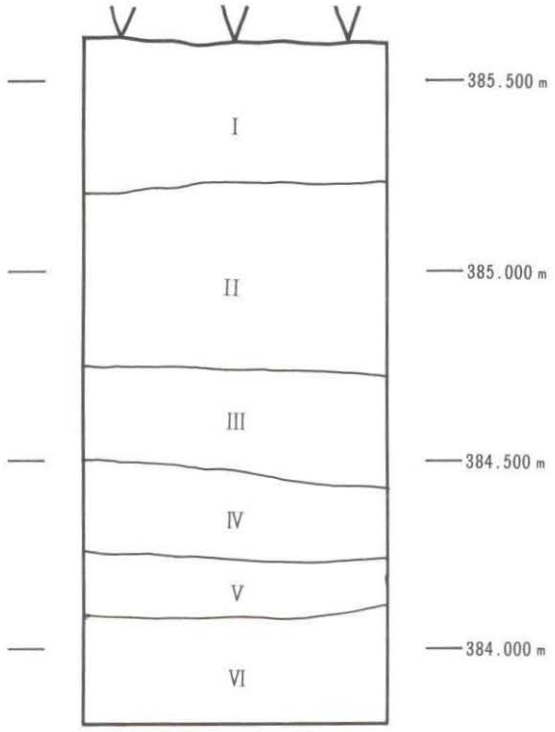
第３図　中沢遺跡Ｃ区全体図

この結果、いずれの地区からも住居跡をはじめとする遺構の存在が確認されたが、Ｂ区については遺構を確認した地点の面積を広げるかたちで継続して本調査に着手した。調査区は、南北方向のトレンチを東西方向にわずかに広げて設定したため、いずれの遺構も部分的な確認に止まった。重機による掘削の終了後、作業員による確認面の精査を行い、プラン確認を行った。遺構の調査は、図面の記録、写真の記録、遺構の観察等を行った。基本的に掘り方まで調査を行った。桃瀬遺跡については冬期の調査となったため、凍結や降霜を防ぐためにシートをかけるなど、遺構を保護する処置を行いつつ調査を進めた。

Ⅳ　中沢遺跡Ｃ区

1　基本層序

下に示す土層断面は、０００－３４５Ｇにて記録した。Ⅲ層以下はいわゆるローム土である。色調については、『新版標準土色帖』に拠った。



Ⅰ　暗褐色土
　Ⅱ層とⅢ層との混土。

Ⅱ　黒色土
　白色粒子を微量、黄橙色粒子を微量、焼土粒子を微量含む。

Ⅲ　にぶい黄褐色土（１０ＹＲ５／４）やや茶味
　白色粒子を微量、黄色粒子を微量、焼土粒子を微量含む。

Ⅳ　灰黄褐色土（１０ＹＲ４／２）
　黄色粒子を微量、白色粒子を微量、焼土粒子を微量含む。

Ⅴ　明黄褐色土（１０ＹＲ６／６）やや砂質
　Ⅳ層土が混入。白色粒子を微量含む。

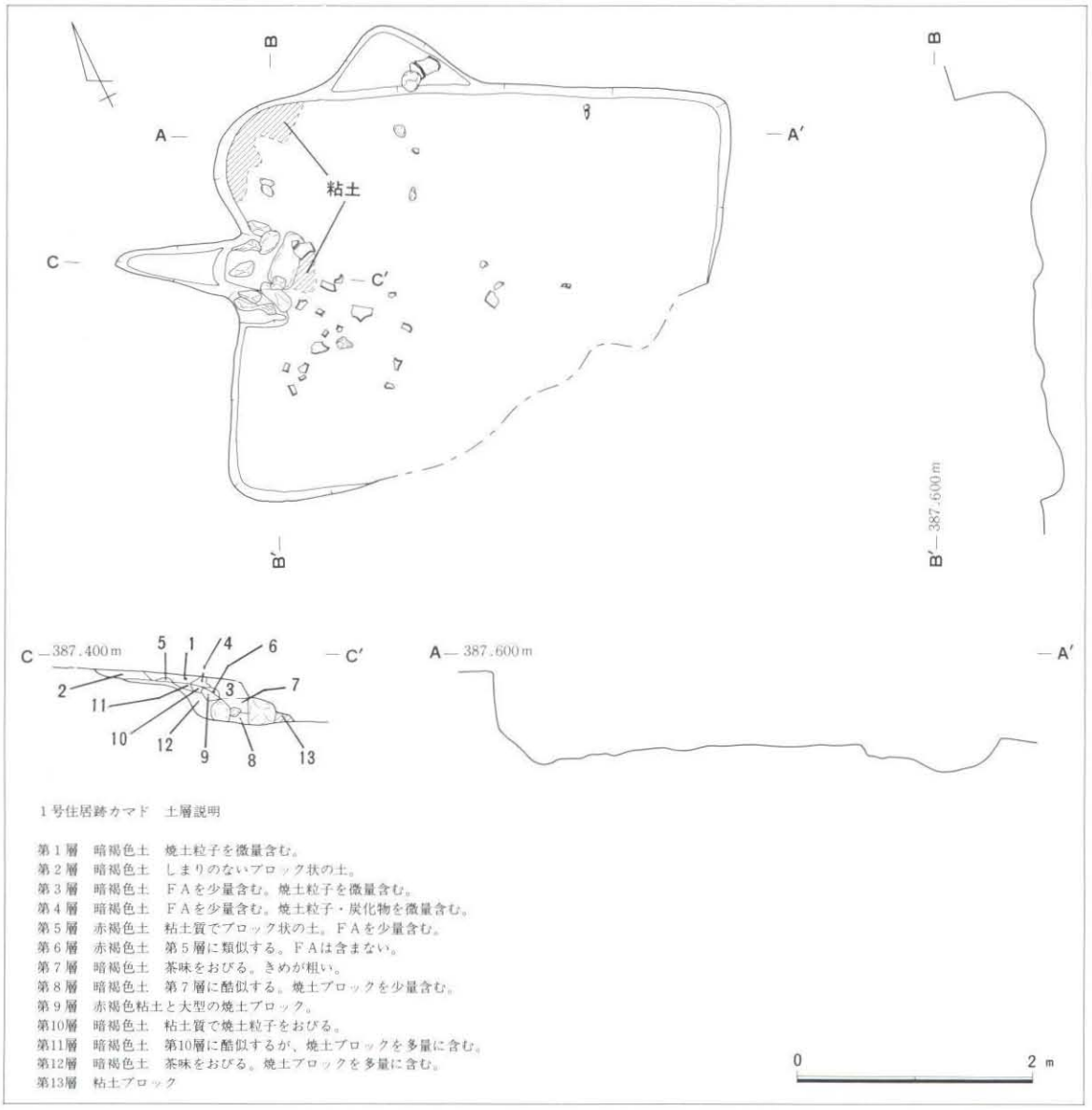
Ⅵ　明黄褐色土（１０ＹＲ６／８）砂質
　礫を少量、白灰色粒子を微量、黒色粒子を微量含む。

第４図　中沢遺跡Ｃ区基本土層

2　調査の概要

本調査に先立ち、試掘調査を中之条町教育委員会（担当篠原充調査員）が行った。現状の畑の地形に沿って試掘トレンチを入れた結果、複数の住居跡のプランが確認された。この結果を踏まえて、対象範囲、調査確認面を決定し本調査に着手した。調査では、１５軒の住居跡、２条の溝状遺構、６基の土坑が確認された。

3　検出された遺構と遺物



1号住居跡カマド　土層説明

第1層　暗褐色土　焼土粒子を微量含む。
第2層　暗褐色土　しまりのないブロック状の土。
第3層　暗褐色土　ＦＡを少量含む。焼土粒子を微量含む。
第4層　暗褐色土　ＦＡを少量含む。焼土粒子・炭化物を微量含む。
第5層　赤褐色土　粘土質でブロック状の土。ＦＡを少量含む。
第6層　赤褐色土　第5層に類似する。ＦＡは含まない。
第7層　暗褐色土　茶味をおびる。きめが粗い。
第8層　暗褐色土　第7層に酷似する。焼土ブロックを少量含む。
第9層　赤褐色粘土と大型の焼土ブロック。
第10層　暗褐色土　粘土質で焼土粒子をおびる。
第11層　暗褐色土　第10層に酷似するが、焼土ブロックを多量に含む。
第12層　暗褐色土　茶味をおびる。焼土ブロックを多量に含む。
第13層　粘土ブロック

第5図　1号住居跡

1号住居跡

1号住居跡は、調査区の北西（０１０－３４５Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８７ｍである。住居跡の南側部分は削平されている。

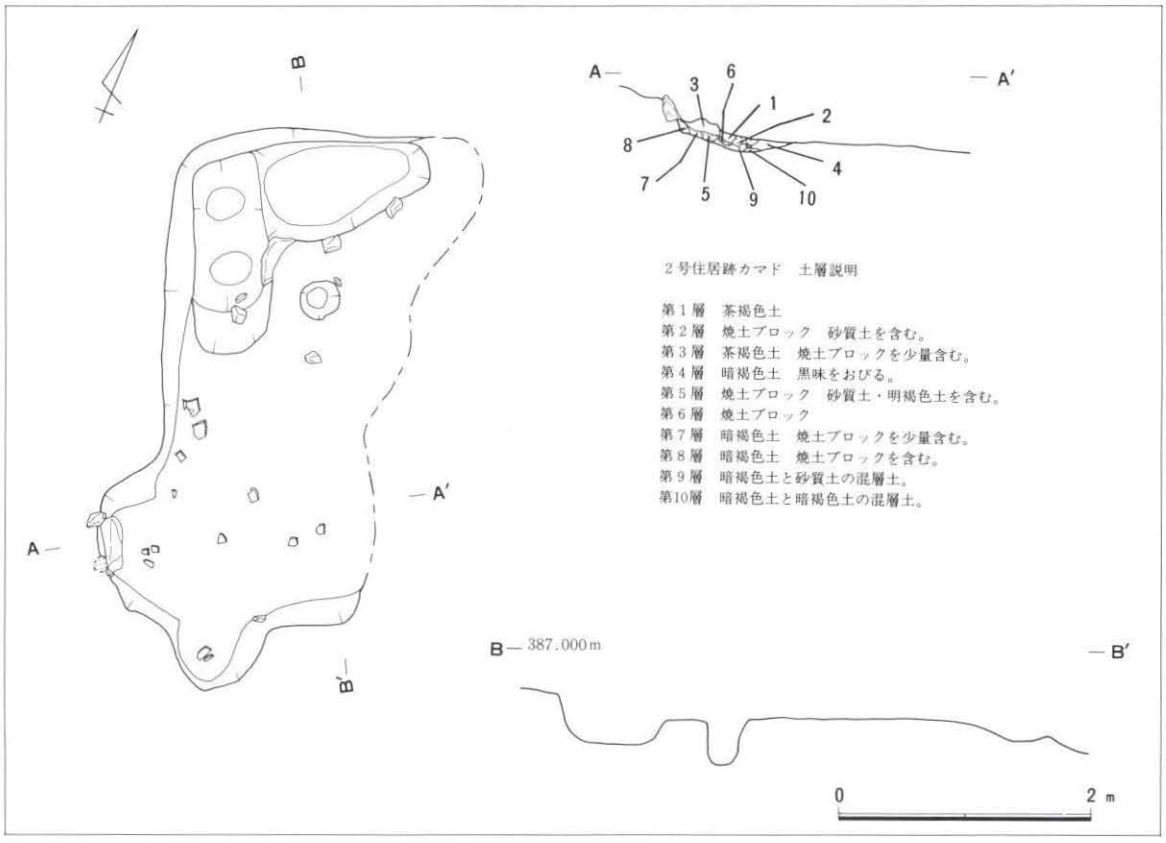
カマドはＡ・Ｂの２つが確認できた。北西方向の断面図を掲載した方がＡカマド、北東方向のものがＢカマドである。

Ａカマドの床面は、地山のローム土をほぼ水平に掘り下げて床面としている。壁の立ち上がりはほぼ垂直

で、地山のローム土が立ち上がっている。本住居跡の北隅には、この壁に貼り付けてあったと思われる粘質土の崩落跡が確認できた。

Ｂカマドの床面は粘質土で貼床されている。この高さは、Ｂカマドの火床面とほぼ同じ高さで、Ａカマドの床面と比べて１５cmほど高い。しかし、床面を確認することができたのはカマドの周辺部分のみであったので、その他の遺構の構造については不明である。

遺物出土の頻度が高かったのは住居跡の西側部分で土師器の甕などが出土している。これらはＡカマドのもので、Ｂカマドの遺物は僅かである。



第６図　２号住居跡

２号住居跡

２号住居跡は、調査区の北西隅（００５－３５０Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８６．６ｍである。住居跡の東側は削平されている。

主軸は西である。カマドの煙道部の確認はできなかったが、焼土と土師器の甕の破片及び地山の土が激しく混ざり合っているのが確認された。焼土は鮮やかな赤色であった。

床面は、ほぼ水平でしっかりとした貼床が確認でき、カマド前の床面には焼土が散らばっていた。床面の東側でははっきりとした範囲は確定できなかった。地山は東側が黒色土で、西側はローム土である。壁の立ち上がりもはっきりとしている。柱穴と考えられるピットは１基のみ確認された。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏などが出土している。

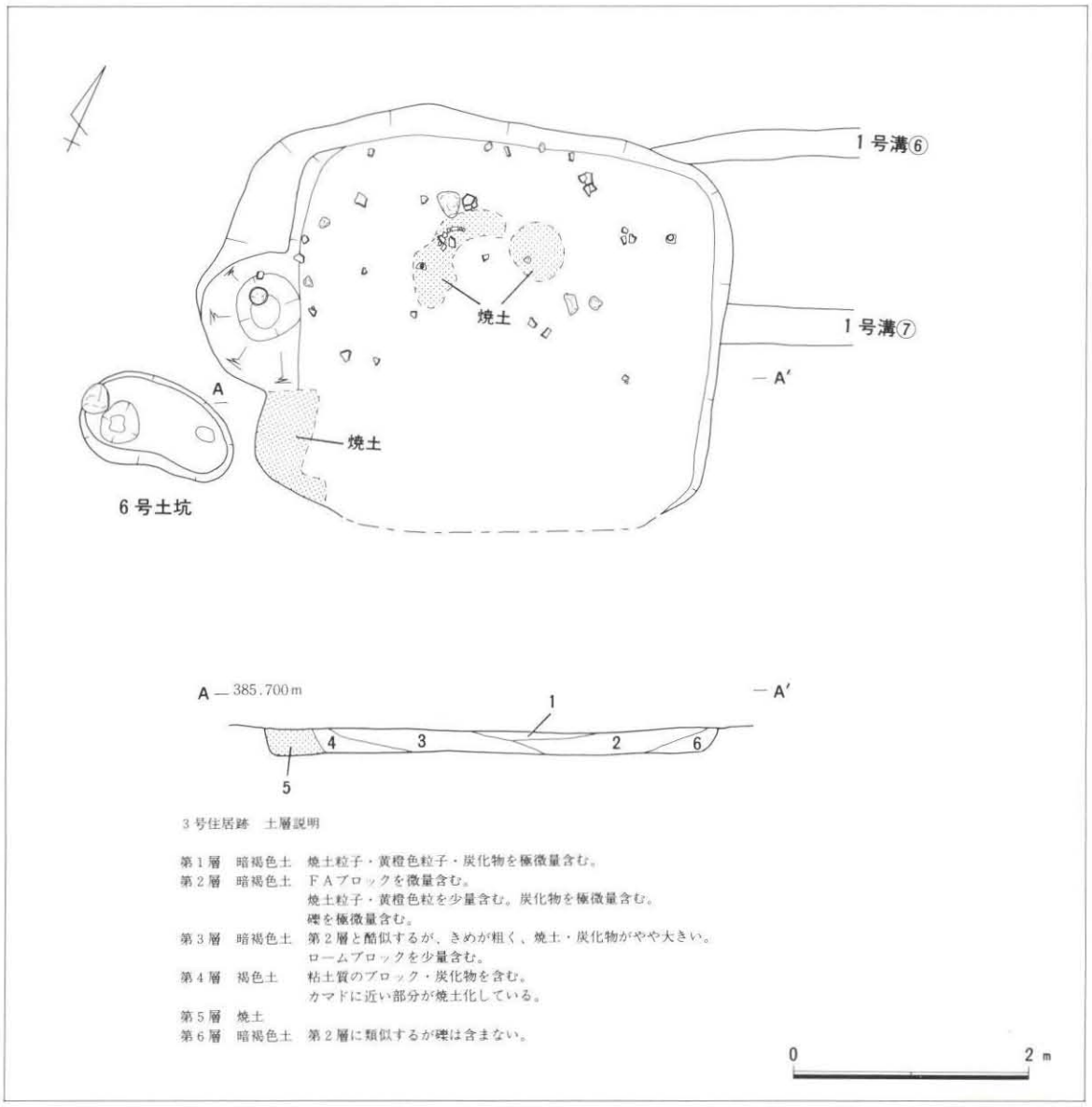
3号住居跡

3号住居跡は、調査区のほぼ中央（０１０－３３５Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８６ｍである。主軸は西と判断した。カマドの底部分と思われる焼土のみ確認できたが、残存状態は良くない。

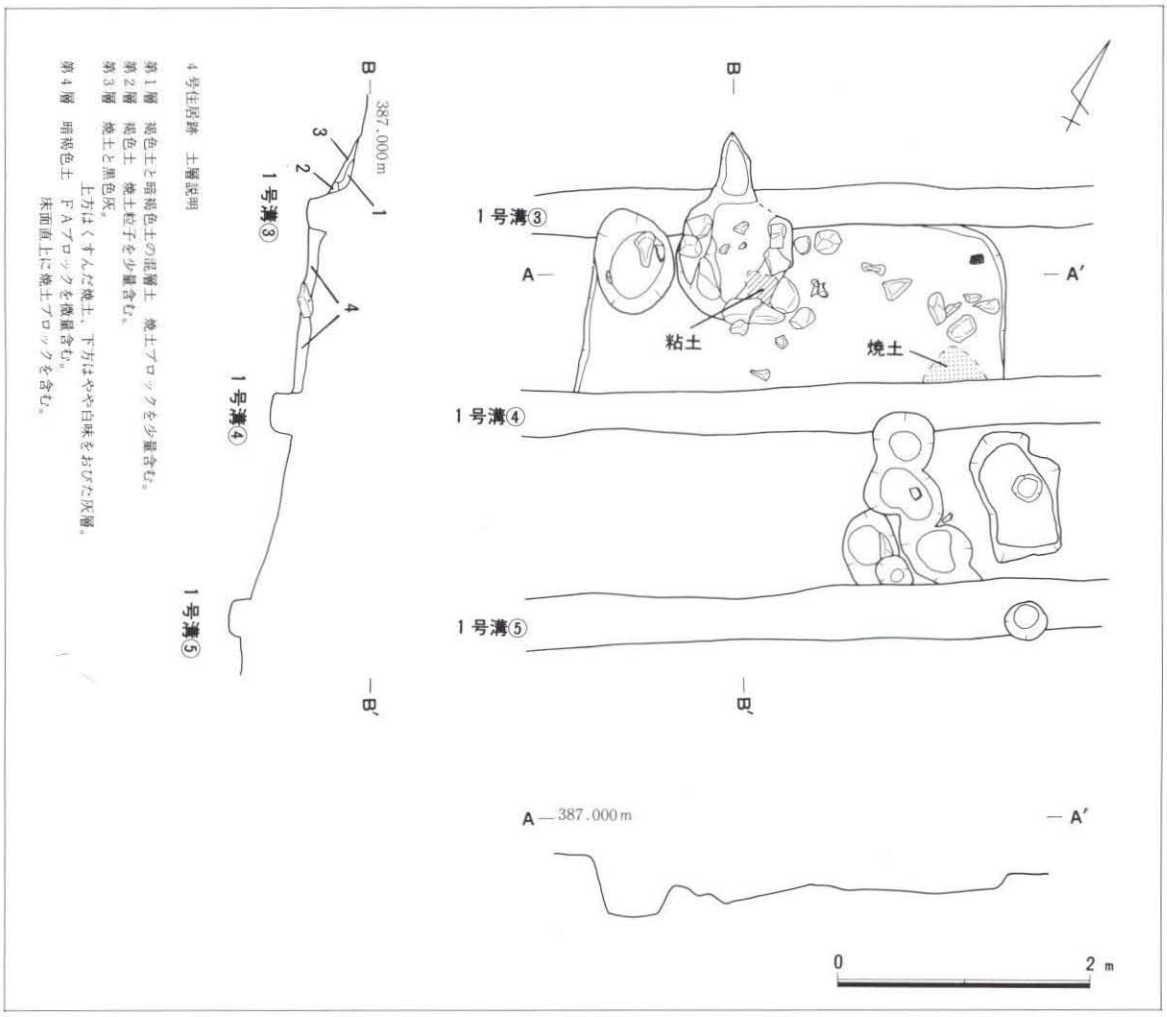
床は地山のローム土を掘り込んだ上に貼床がしてあった。壁は北側、東側ともほぼ垂直に立ち上がっている。遺物は土師器の甕、須恵器の杯、椀、羽釜のほか土錘、鉄鏃が出土している。

6号土坑

6号土坑は3号住居跡の南西で確認された。平面形は東西方向を長辺とする楕円形で、覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。



第7図　3号住居跡・6号土坑



第8図　4号住居跡

4号住居跡

4号住居跡は、調査区の北東寄り（０２０－３２５Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８６．５ｍである。住居跡の南側は削平されている。

主軸は北北西である。この4号住居跡のカマドは真紅と言って良いほどの鮮やかな濃い赤色で、残好状況も良好であった。

床は、地山のローム土を掘り下げたものである。このローム土は褐色でやや灰色味を帯びた粘土質に近いものである。カマドの西側で確認されたピットは貯蔵穴と考えられる。東側の床面で炭化物片、礫、焼土が確認できた。

壁の立ち上がりはほぼ垂直であり、しっかりとした地山のローム土が立ち上がっている。覆土は地山の褐色ローム土が混入する暗褐色土であった。

4号住居跡は、東西方向に走る耕作溝に攪乱されているが、残存状態は良く、遺物も土師器の甕、坏などが出土している。

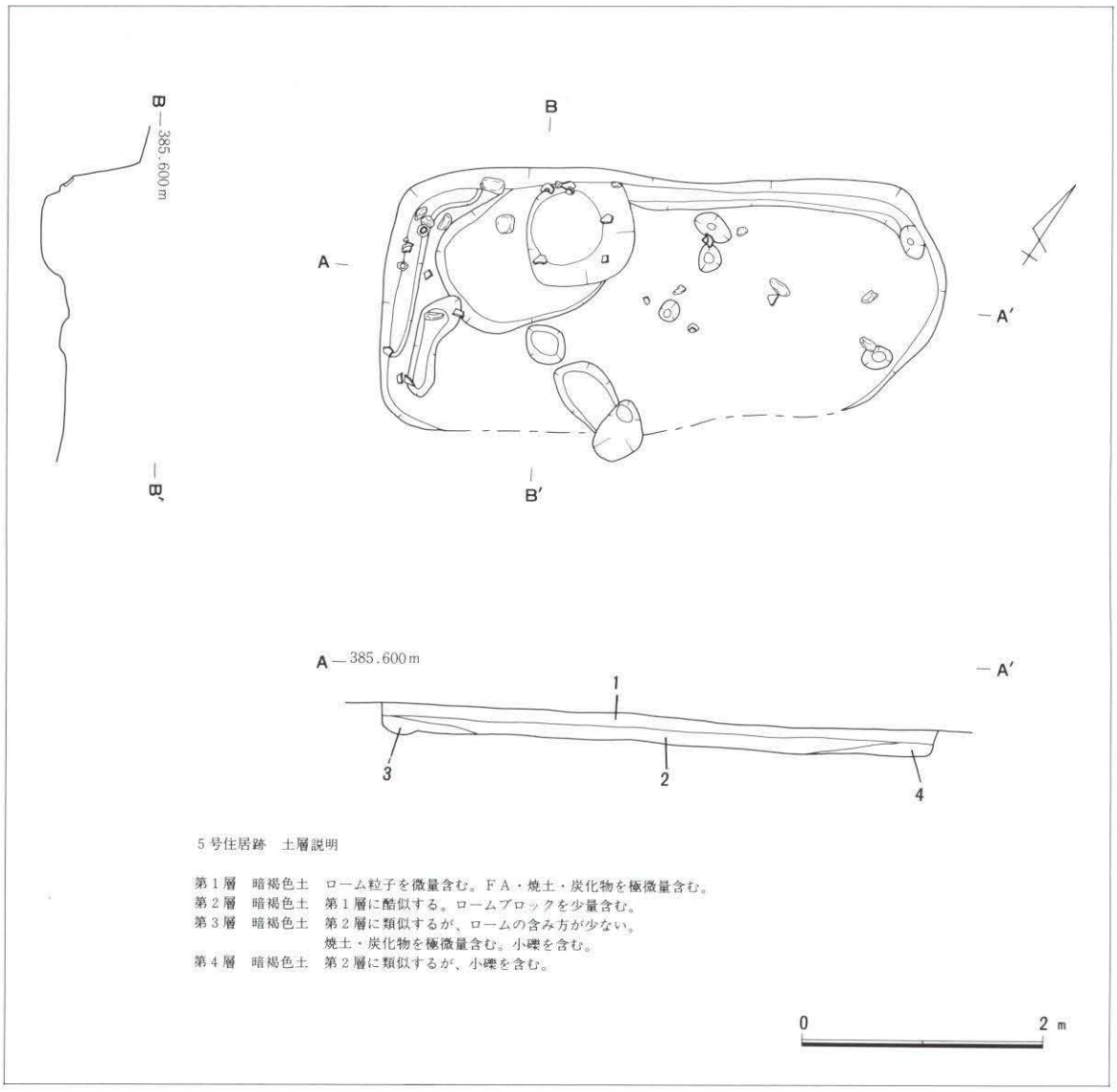
5号住居跡

5号住居跡は、調査区のほぼ中央（０１０－３３０Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８５ｍである。住居跡の南側は削平されている。

カマドについては、その痕跡も含めて確認はできなかったが、主軸は西南西から東北東であると推測される。本遺跡の住居跡のカマドは、西と北西のものが多いことを考えれば、カマドは存在しなかった可能性も考えられる。

壁は地山のローム土がほぼ垂直に立ち上がり、床は一部を貼床している。壁の立ち上がり部分には周溝がまわる。床の北西寄りの部分にピットがあり、灰釉陶器の皿が出土した。覆土はＦＡ粒子を僅かに含む暗褐色土である。

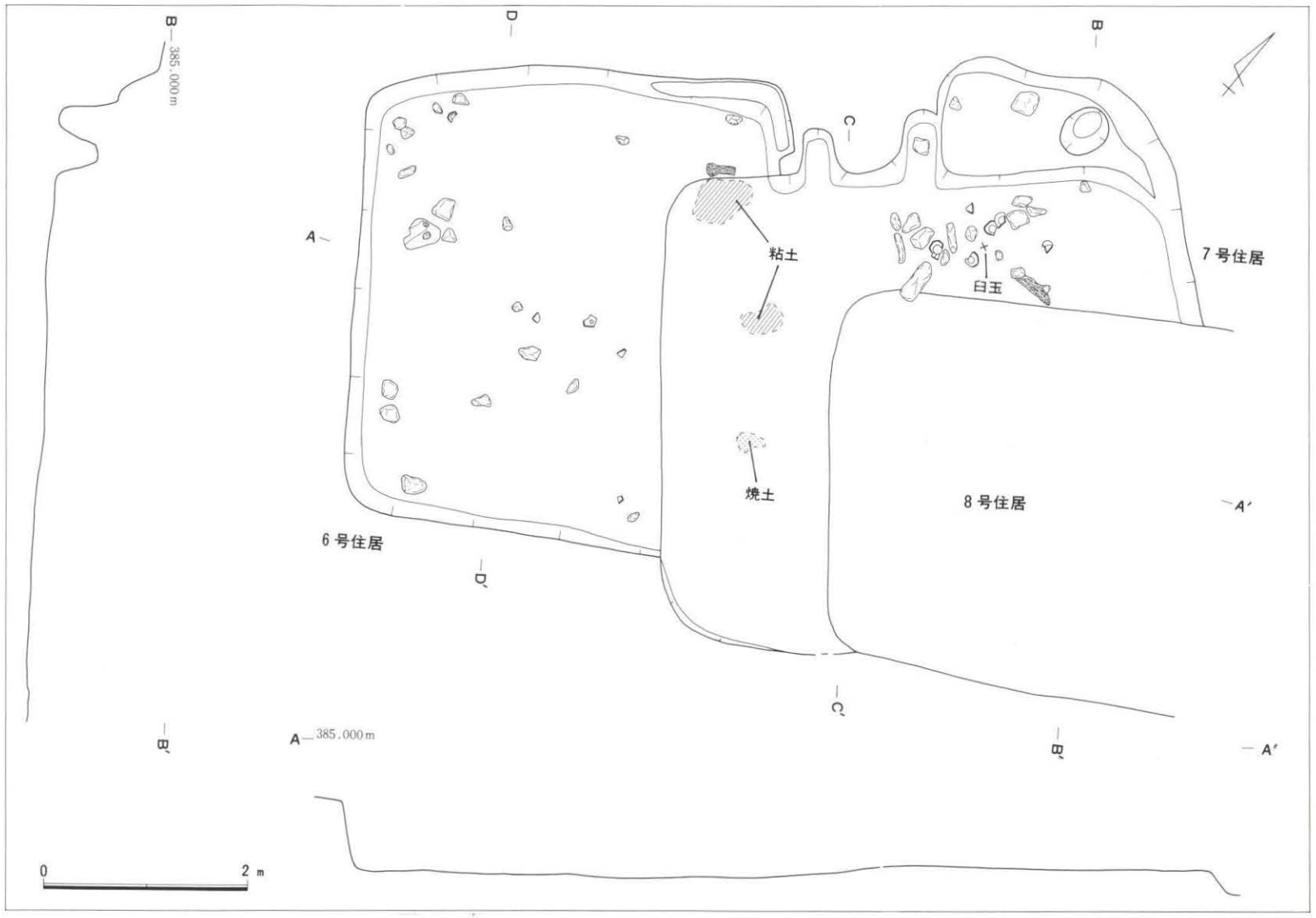
遺物はほかに、須恵器の坏、埦、羽釜などが出土している。



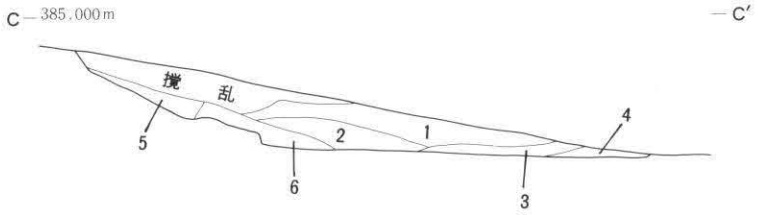
5号住居跡　土層説明

第１層　暗褐色土　ローム粒子を微量含む。ＦＡ・焼土・炭化物を極微量含む。
第２層　暗褐色土　第１層に酷似する。ロームブロックを少量含む。
第３層　暗褐色土　第２層に類似するが、ロームの含み方が少ない。
焼土・炭化物を極微量含む。小礫を含む。
第４層　暗褐色土　第２層に類似するが、小礫を含む。

第９図　５号住居跡

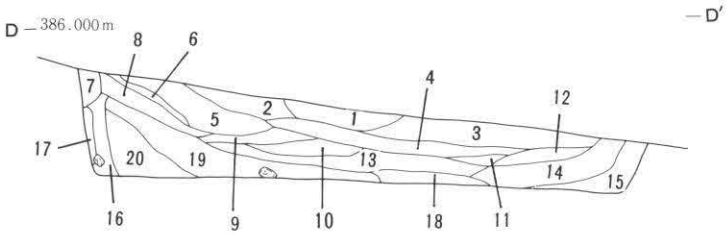


第１０図　６・７号住居跡（１）



7・8号住居跡　土層説明

第1層　暗褐色土　やや茶味をおびる。褐色粒子を微量含む。
　　ＦＡ・焼土・白色粒子を極微量含む。
第2層　暗褐色土　ロームブロック・粘土ブロックを微量含む。
　　焼土・白色粒子・礫を極微量含む。
第3層　暗褐色土　黒色土を多量に含む。ＦＡ・焼土を極微量含む。
　　黄橙色粒子・白色粒子を極微量含む。
第4層　暗褐色土　第3層に酷似するが、黒色土の含み方が少ない。
第5層　暗褐色土　茶味をおびる。ＦＡブロック・焼土を極微量含む。
　　褐色粒子をまだらに含む。
第6層　暗褐色土　茶味をおびる。ロームブロックを多量に含む。礫を含む。
　　焼土・粘土を極微量含む。



6号住居跡　土層説明

第1層　褐色土　暗褐色土ブロックを少量含む。黄褐色土ブロックを極少量含む。
　　ＦＡブロック・焼土を微量含む。
第2層　褐色土　黄味が強い。黄橙色土ブロックを極微量含む。
　　ＦＡブロックを多量に含む。焼土・炭化物を極微量含む。
　　白色粒子を極微量含む。
第3層　褐色土　ＦＡブロック・黄橙色ブロックを微量含む。
　　焼土・炭化物を極微量含む。
第4層　褐色土　砂質土が水平に堆積する。ＦＡブロックを多量に含む。
　　焼土・炭化物・粘土ブロックを極微量含む。
第5層　褐色土　ＦＡブロックを少量含む。焼土・炭化物を極微量含む。
　　白色粒子・小礫を極微量含む。
第6層　褐色土　ＦＡブロックを微量含む。小礫を極微量含む。
　　黄橙色粒子・焼土・炭化物を極微量含む。
第7層　暗褐色土　ＦＡ・焼土を微量含む。
第8層　褐色土　暗褐色土・白色粒子をまだらに含む。小礫を極微量含む。
　　ＦＡ・焼土・炭化物を微量含む。
第9層　暗褐色土　褐色土を含む。ＦＡブロックを多量に含む。
　　焼土・炭化物・白色粒子を極微量含む。
第10層　褐色土　ＦＡを少量含む。焼土・炭化物・白色粒子を極微量含む。
第11層　褐色土　ＦＡを微量含む。黄橙色粒子・小礫を極微量含む。
第12層　褐色土　ＦＡを少量含む。焼土・炭化物・白色粒子を極微量含む。
第13層　褐色土　暗褐色土を多量に含む。焼土・炭化物を極微量含む。
　　ＦＡ・粘土質ブロック・黄橙色粒子を微量含む。
第14層　褐色土　暗褐色土を微量含む。ＦＡ・焼土・白色粒子を極微量含む。
　　炭化物・粘土質ブロックを極微量含む。
第15層　暗褐色土　ＦＡブロック・褐色土ブロックを微量含む。
　　焼土・黄橙色粒子を極微量含む。
第16層　褐色土　ＦＡ・焼土を極微量含む。
第17層　黒色土
第18層　褐色土　第14層に類似する。暗褐色土を微量含む。
　　ＦＡ・粘土ブロック・白色粒子を極微量含む。
第19層　褐色土　ＦＡブロックを微量、ＦＡ粒子を多量に含む。
　　焼土・炭化物・白色粒子を極微量含む。礫を少量含む。
第20層　褐色土　第19層に酷似するが、礫は含まない。

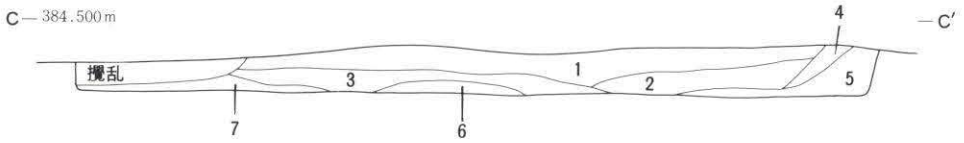
0　2 m

第１１図　６・７号住居跡（２）

６・７・８・１２号住居跡

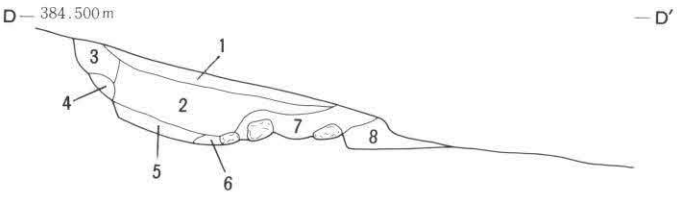
６・７・８・１２号住居跡は、調査区の南側（０００－３３５Ｇ～０００－３４５Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８４ｍである。６号住居跡以外は住居跡の南側が削平されている。この４つの住居跡は切りあっており、重複関係は、７号住が６号住を切り、この７号住と１２号住を８号住が切っている。

第12図　8・12号住居跡（1）



8号住居跡　土層説明

第１層　暗褐色土　ＦＡブロックを微量含む。焼土・炭化物を微量含む。
白色粒子を微量含む。
第２層　暗褐色土　ＦＡブロック・炭化物を微量含む。
第３層　暗褐色土　ＦＡ・ローム粒子を微量含む。焼土を微量含む。
第４層　暗褐色土　ＦＡ・ローム粒子を微量含む。
第５層　暗褐色土　ロームを多量に含む。ＦＡブロックを微量含む。
焼土・白色粒子を微量含む。
第６層　暗褐色土　ＦＡを微量含む。黄橙色粒子を極微量含む。
第７層　暗褐色土　粘土ブロック・ＦＡブロック・焼土を極微量含む。



12号住居跡　土層説明

第１層　暗褐色土　ＦＡブロック・白色粒子を極微量含む。
焼土を微量含む。
第２層　暗褐色土　ＦＡブロックを少量含む。焼土を微量含む。
炭化物・白色粒子を極微量含む。
第３層　暗褐色土　明黄褐色土ブロックを含む。白色粒子を極微量含む。
第４層　褐色土　暗褐色土とロームが混じる砂質土。
第５層　暗褐色土　褐色土を多量含む。
第６層　褐色土　第４層に類似する。焼土・明黄褐色土を含む。
第７層　暗褐色土　ＦＡブロックを少量含む。明黄褐色土ブロックを含む。
白色粒子を極少量含む。
第８層　暗褐色土　ＦＡブロック・明黄褐色土ブロックを少量含む。
床面直上付近に焼土を極微量含む。

0　2 m

第１３図　８・１２号住居跡（２）

６号住居跡は、比較的残存状態の良い住居跡であるにもかかわらず、カマドは確認できなかった。北西、南西、南東の壁については立ち上がりが確認できたが、北東壁については７号住居跡に切られている。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、北西壁では床面から５５cmほどの高さの部分で１０cmほどの水平のテラス状の段差が確認された。遺物は土師器の坏が出土している。

７号住居跡の主軸は北西である。確認された２つのカマドはいずれも７号住居跡に伴うものと判断した。住居跡の北西に焼土の塊が確認された。その南側の粘土・焼土ブロックを含めて７号住居跡のものである。壁面は北西部のみ確認できた。６号住居跡との境で、明らかに７号住居跡が切っていることが確認できたが、７号住居跡の南西側の壁の立ち上がりは確認できなかった。立ち上がりはほぼ垂直であるが、床から６０cm

のところで外側にテラス状の段差が張り出していた。この部分の大きさは２ｍ×１ｍでピットが１つある。床は南西側と北西側のみＬ字型に確認できた。残りの南東側は８号住居跡に切られていて残存していない。カマド付近には焼土ブロック・炭化物片が多数散らばっていた。覆土は暗褐色土でＦＡブロックを僅かに含んでいる。遺物は、土師器の杯のほか、臼玉が出土している。

１２号住居跡は西側を８号住居跡に切られている。壁を確認できたのは北壁及び東壁で、ほぼ垂直に立ち上がっていた。カマドは確認できなかった。

８号住居跡については、はっきりとプランを確認できなかったものの、床面ははっきりしており、その床面の高さは１２号住居跡より高い。また、１２号住居の床面との間からは、直径２０cmほどの礫が多く確認された。遺物は土師器の甕、坏が出土しているが、量的に少なく、７号住居跡との遺物の差が顕著である。

９号住居跡

９号住居跡は、調査区の南西隅（９９５－３５０Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８５ｍである。住居跡の南東部分は壁の上部が削平されているものの、残存状態は良い。

主軸は北西方向である。カマドは灰や炭化物粒等から使用した痕跡が確認できるが、土は赤味を帯びていない。袖は地山のロームににぶい橙色の粘土と黒色土を貼り付け、石を設置している。

地山は東側が黒色土、西側はやや粘性のあるローム土で、壁はこの地山がほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は西隅で１０５cm、東隅で１５cmである。住居跡の南東側はテラス状に壁面の上部に段差ができている。

床面は、黒色土と褐色土が混ざった土で貼床されていた。その床に残存状態の良いピットが４本確認されたが、これは主柱穴と考えられる。このうち、カマドに近い２本の深さは床面から４０cm、残る２本は５０cmである。また、カマドの南側には貯蔵穴と考えられる正方形のピットが確認された。深さは床面から５５cmである。

覆土はＦＡブロックを含む褐色土である。遺物は土師器の坏、須恵器の坏、蓋などが出土している。

１０号住居跡

１０号住居跡は、調査区の南西隅（９９５－３５０Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８６ｍである。北西の壁のみはっきりと確認できた。カマドは確認できなかった。

地山のローム土を掘り込んで床面と壁としている。１０号住居跡で確認された礫の半数ほどは焼けて熱を受けた状態になっている。覆土は暗褐色土に明黄褐色土が混ざった状態で、ＦＡブロックを僅かに含んでいる。

遺物は須恵器の坏、埦、羽釜などのほか、砥石が出土している。

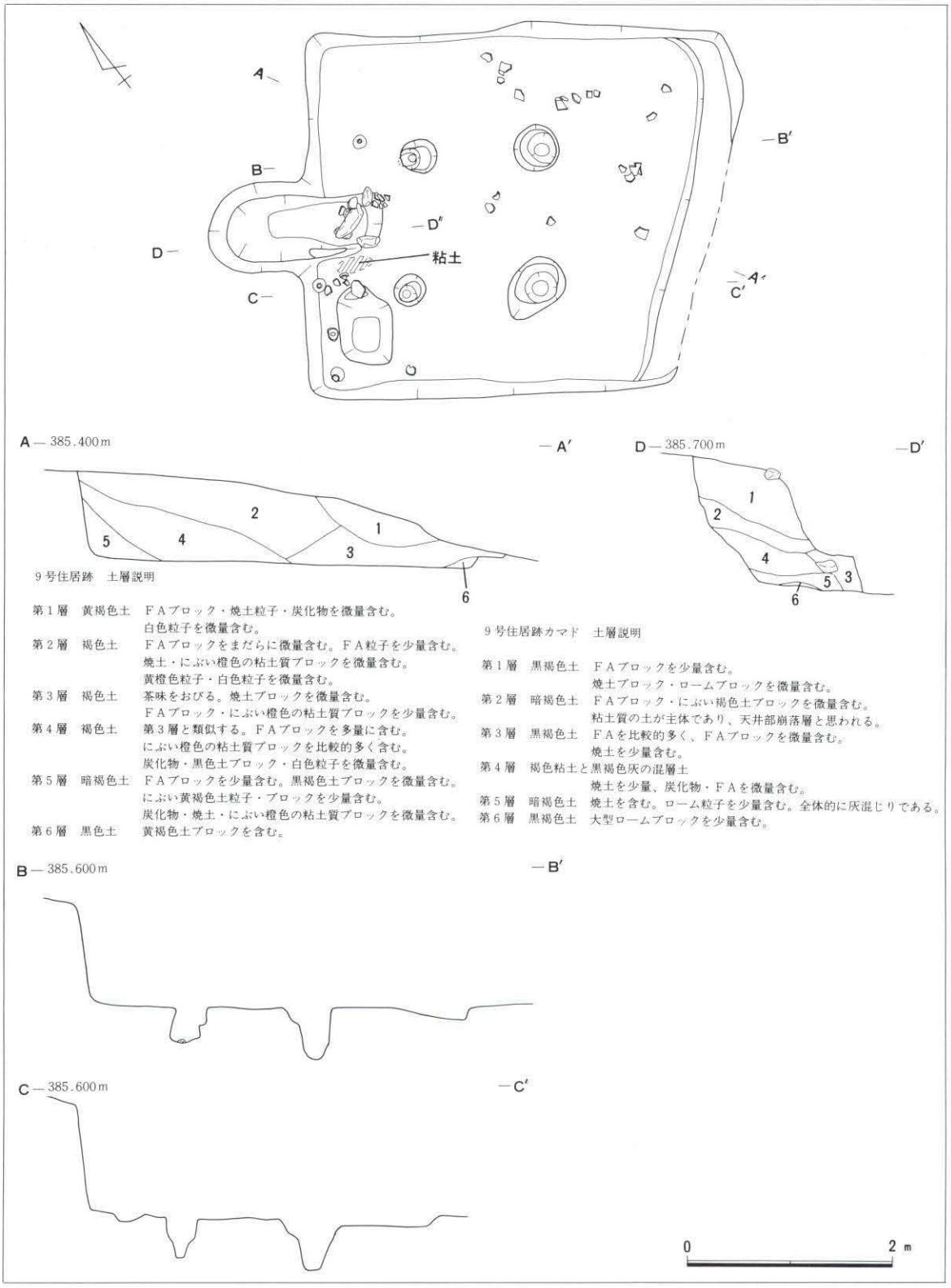
１１号住居跡

１１号住居跡は、調査区の東側（０１５－３１５Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８３．５ｍである。カマドは確認できなかったが、南東部分に焼土のまとまりが確認できた。

壁はやや緩く立ち上がる。床は住居跡の南側で黒褐色土の非常に固く締まった貼床が確認されたが、北壁寄りの部分では地山のローム土を床としている。

覆土は暗褐色土でＦＡブロックを僅かに含んでいる。地山のローム土は径２０cmほどの礫を含む。

遺物は須恵器の坏などが出土している。



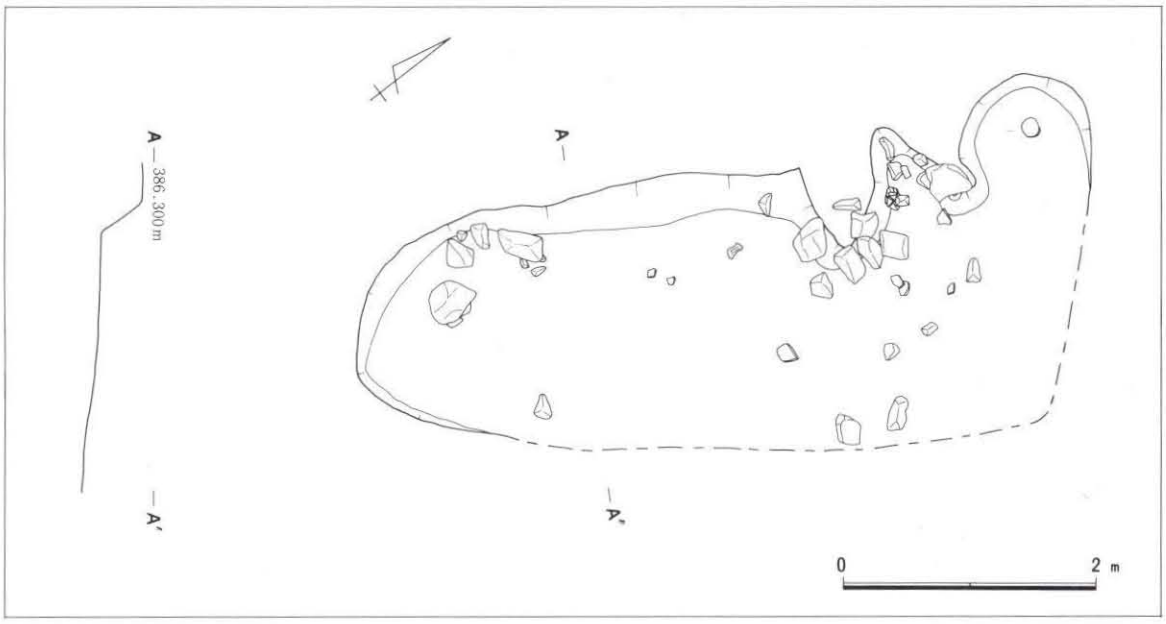
9号住居跡　土層説明

第1層　黄褐色土　ＦＡブロック・焼土粒子・炭化物を微量含む。
白色粒子を微量含む。
第2層　褐色土　ＦＡブロックをまだらに微量含む。ＦＡ粒子を少量含む。
焼土・にぶい橙色の粘土質ブロックを微量含む。
黄橙色粒子・白色粒子を微量含む。
第3層　褐色土　茶味をおびる。焼土ブロックを微量含む。
ＦＡブロック・にぶい橙色の粘土質ブロックを少量含む。
第4層　褐色土　第3層と類似する。ＦＡブロックを多量に含む。
にぶい橙色の粘土質ブロックを比較的多く含む。
炭化物・黒色土ブロック・白色粒子を微量含む。
第5層　暗褐色土　ＦＡブロックを少量含む。黒褐色土ブロックを微量含む。
にぶい黄褐色土粒子・ブロックを少量含む。
炭化物・焼土・にぶい橙色の粘土質ブロックを微量含む。
第6層　黒色土　黄褐色土ブロックを含む。

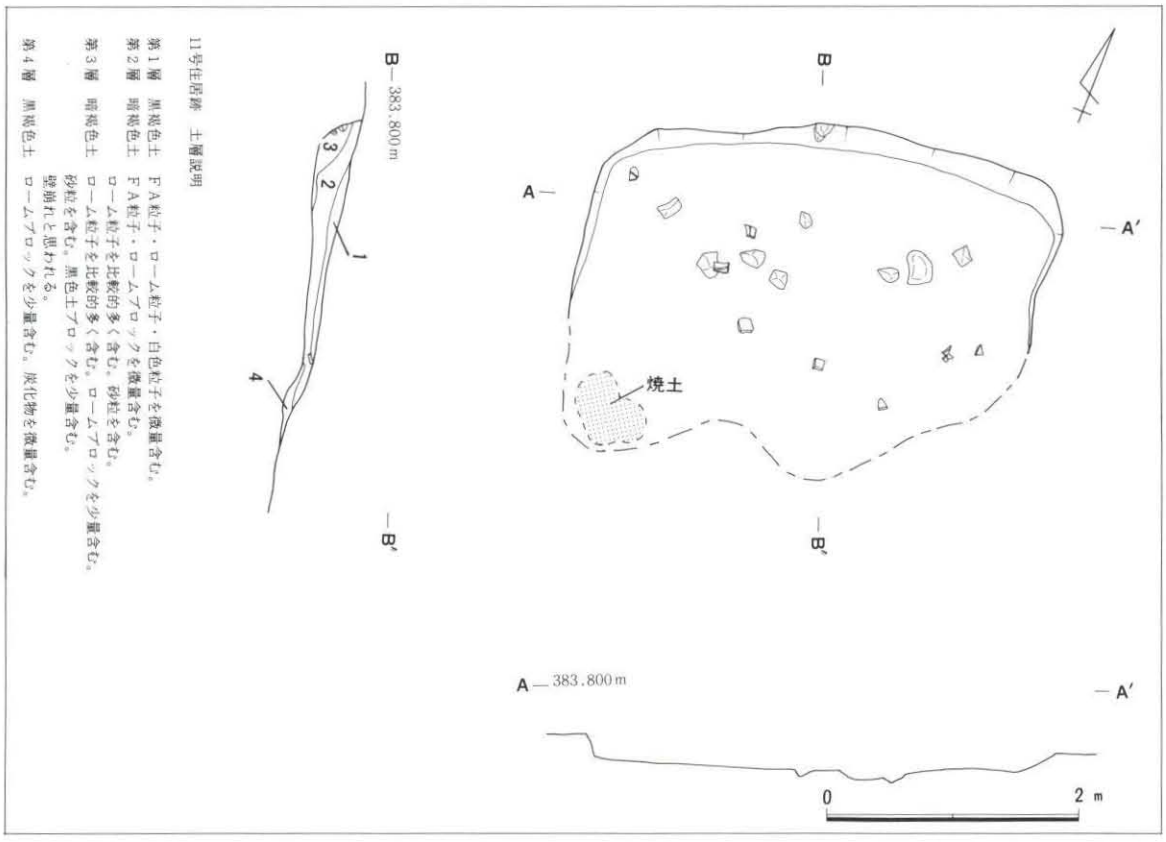
9号住居跡カマド　土層説明

第1層　黒褐色土　ＦＡブロックを少量含む。
焼土ブロック・ロームブロックを微量含む。
第2層　暗褐色土　ＦＡブロック・にぶい褐色土ブロックを微量含む。
粘土質の土が主体であり、天井部崩落層と思われる。
第3層　黒褐色土　ＦＡを比較的多く、ＦＡブロックを微量含む。
焼土を少量含む。
第4層　褐色粘土と黒褐色灰の混層土
焼土を少量、炭化物・ＦＡを微量含む。
第5層　暗褐色土　焼土を含む。ローム粒子を少量含む。全体的に灰混じりである。
第6層　黒褐色土　大型ロームブロックを少量含む。

第14図　9号住居跡



第１５図　１０号住居跡



第１６図　１１号住居跡

１３号住居跡

１３号住居跡は、調査区の東端（０１５－３１０Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８３ｍである。住居跡の南側は２号土坑に切られている。カマドは確認できなかった。

壁は地山のローム土がほぼ垂直に立ち上がり、床は黒褐色土で強固に貼床されていた。この床面には、径１０㎝ほどの地山の礫が多数確認された。覆土は黒褐色土でロームブロック・砂粒を含む。

遺物は少なく、東側の床面から刀子が出土したほかは、土師器片、須恵器片が少量出土したのみである。

２号土坑

２号土坑は、１３号住居跡の南側（０１０－３０５Ｇ）で確認された。１３号住居跡よりも新しい。南及び東側で遺構の範囲を確認することができなかった。覆土は黒褐色土で、一部粕川テフラを含んでいる。

１５号住居跡

１５号住居跡は、調査区の北東（０２０－３２５Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８６.５ｍである。この住居跡は東側が調査区外であるので、確認されたのは平面的に１／２程度である。

主軸は北西である。カマドは確認できたが耕作溝に切られていた。壁ははっきりと地山のローム土がほぼ垂直に立ち上がる。床は地山のローム土である。土層断面は、覆土を含めたものが現在の地表面から住居跡の床面まで一括で確認できた。調査区の西側から比べると現在の地表から地山のローム土までの深さは浅くなっている。覆土は黒褐色土でＦＡ粒子を含んでいる。

遺物は少ないものの、須恵器の坏、埦などが出土している。

１６号住居跡

１６号住居跡は、調査区の南側（００５－３２０Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８２.５ｍである。住居跡の東部分は壁の上部が削平されているが、残存状態は良い。

主軸は西方向である。カマドは良く焼けており、カマド付近の床面も赤く焼けた状態が確認できた。袖は地山のローム土に粘土を貼り付けた後、石を設置している。カマドの覆土は、褐色土の粘土質の層と焼土ブロックとなった層が確認できた。確認面からカマド底部までの高さは６５㎝ほどである。

壁ははっきりと、ほぼ垂直に立ち上がっている。地山の西側はローム土で、東側は黒色土である。覆土は黒褐色土で、ローム粒とＦＡ粒子を含んでいる。床面はピットは確認されなかった。

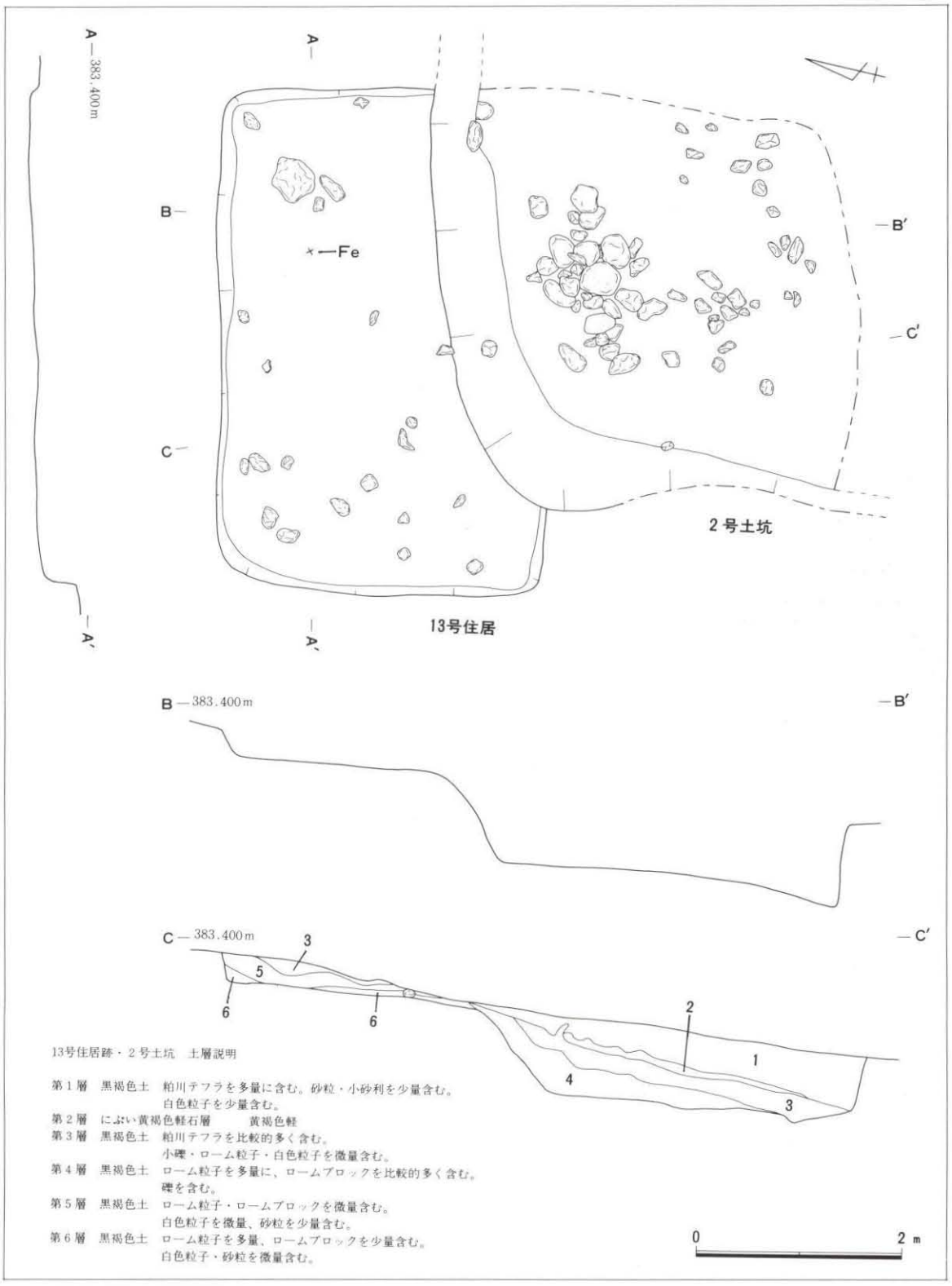
遺物は、土師器甕の破片や石製紡錘車が出土している。

１号土坑

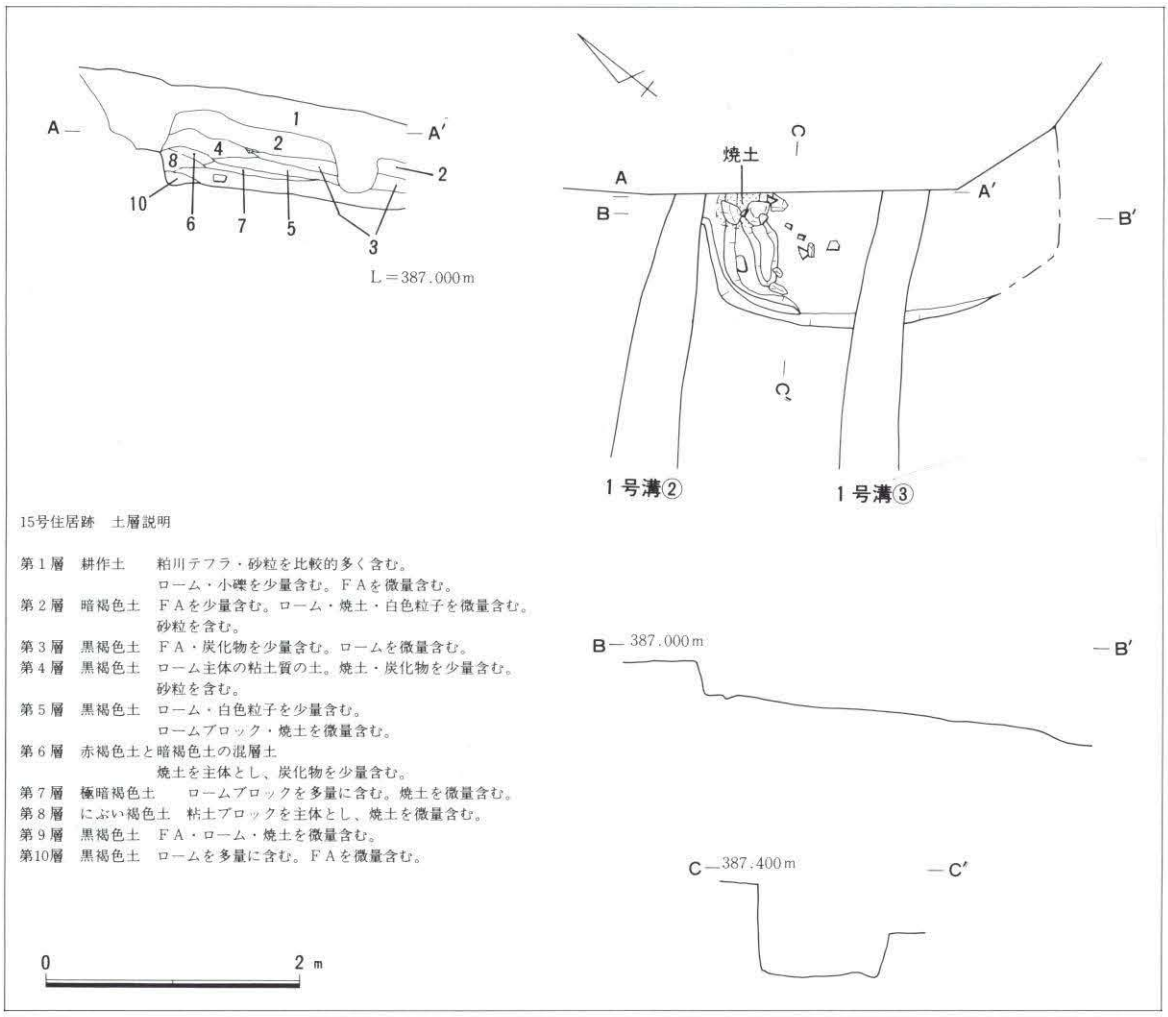
１号土坑跡は、１６号住居跡の北西（００５－３２０Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３８３．５ｍである。残存状態は良く、プランははっきりと確認できた。平面形は東西方向を長辺とする長方形である。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土はＦＡブロックを含む黒褐色土である。

３号土坑

３号土坑は、調査区のほぼ中央（０１５－３３０Ｇ）で確認された。平面形は円形で、覆土はローム粒、ＦＡ粒を含む黒褐色土である。遺物は土師器片、須恵器片が若干出土している。



第17図　13号住居跡・2号土坑



15号住居跡　土層説明

第１層　耕作土　　粕川テフラ・砂粒を比較的多く含む。
　　ローム・小礫を少量含む。ＦＡを微量含む。
第２層　暗褐色土　ＦＡを少量含む。ローム・焼土・白色粒子を微量含む。
　　砂粒を含む。
第３層　黒褐色土　ＦＡ・炭化物を少量含む。ロームを微量含む。
第４層　黒褐色土　ローム主体の粘土質の土。焼土・炭化物を少量含む。
　　砂粒を含む。
第５層　黒褐色土　ローム・白色粒子を少量含む。
　　ロームブロック・焼土を微量含む。
第６層　赤褐色土と暗褐色土の混層土
　　焼土を主体とし、炭化物を少量含む。
第７層　極暗褐色土　　ロームブロックを多量に含む。焼土を微量含む。
第８層　にぶい褐色土　粘土ブロックを主体とし、焼土を微量含む。
第９層　黒褐色土　ＦＡ・ローム・焼土を微量含む。
第10層　黒褐色土　ロームを多量に含む。ＦＡを微量含む。

第１８図　１５号住居跡

４号土坑

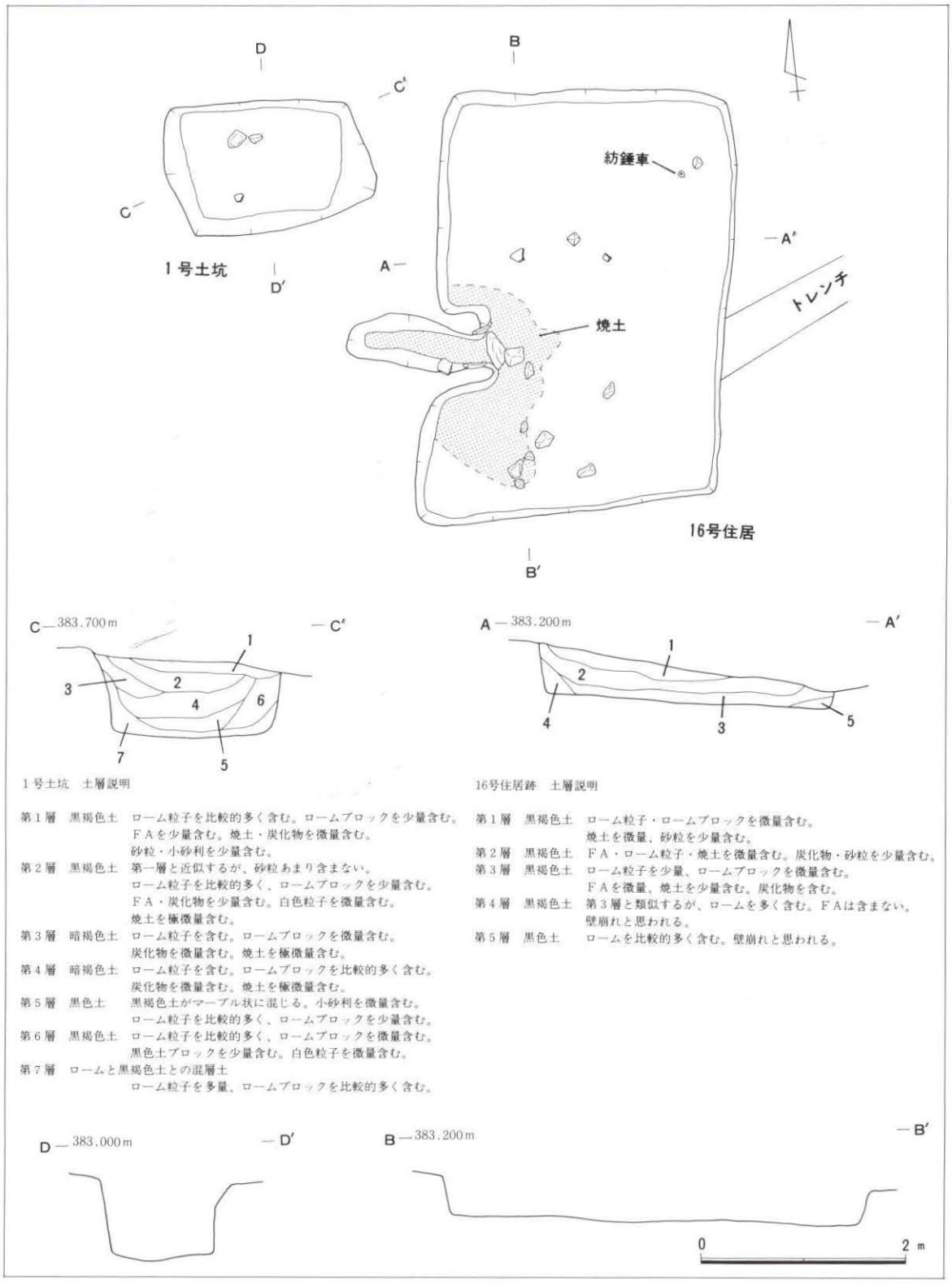
４号土坑は、調査区の中央やや西側（０１０－３４０Ｇ）で確認された。平面形は円形である。覆土に焼土層が見られることから、削平された住居のカマド跡とも考えられる。遺物は須恵器甕の破片や埦が出土している。

５号土坑

５号土坑は、調査区の北西（０１０－３５０Ｇ）で確認された。平面形は楕円形で、覆土は暗赤褐色土である。

２号溝状遺構

２号溝は、調査区の南西隅（９９０－３５０Ｇ）で確認された。北西から南東方向に走向しており、覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。



1号土坑　土層説明

第1層　黒褐色土　ローム粒子を比較的多く含む。ロームブロックを少量含む。
ＦＡを少量含む。焼土・炭化物を微量含む。
砂粒・小砂利を少量含む。

第2層　黒褐色土　第一層と近似するが、砂粒あまり含まない。
ローム粒子を比較的多く、ロームブロックを少量含む。
ＦＡ・炭化物を少量含む。白色粒子を微量含む。
焼土を極微量含む。

第3層　暗褐色土　ローム粒子を含む。ロームブロックを微量含む。
炭化物を微量含む。焼土を極微量含む。

第4層　暗褐色土　ローム粒子を含む。ロームブロックを比較的多く含む。
炭化物を微量含む。焼土を極微量含む。

第5層　黒色土　黒褐色土がマーブル状に混じる。小砂利を微量含む。
ローム粒子を比較的多く、ロームブロックを少量含む。

第6層　黒褐色土　ローム粒子を比較的多く、ロームブロックを微量含む。
黒色土ブロックを少量含む。白色粒子を微量含む。

第7層　ロームと黒褐色土との混層土
ローム粒子を多量、ロームブロックを比較的多く含む。

16号住居跡　土層説明

第1層　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロックを微量含む。
焼土を微量、砂粒を少量含む。

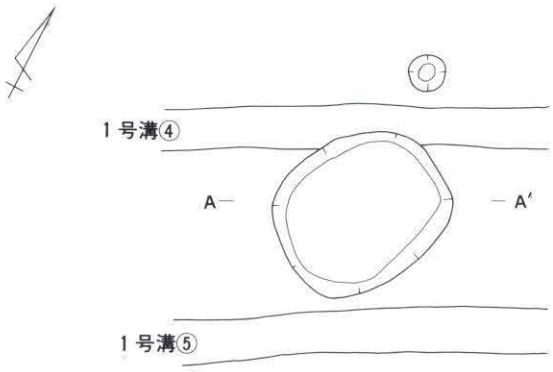
第2層　黒褐色土　ＦＡ・ローム粒子・焼土を微量含む。炭化物・砂粒を少量含む。

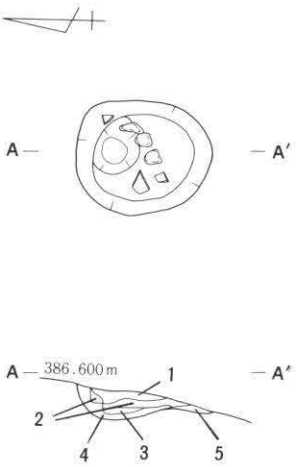
第3層　黒褐色土　ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む。
ＦＡを微量、焼土を少量含む。炭化物を含む。

第4層　黒褐色土　第3層と類似するが、ロームを多く含む。ＦＡは含まない。
壁崩れと思われる。

第5層　黒色土　ロームを比較的多く含む。壁崩れと思われる。

第１９図　１６号住居跡・１号土坑

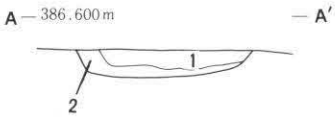




4号土坑　土層説明

第1層	黒褐色土	ローム・白色粒子を微量含む。
第2層	褐色ローム	黒褐色土を少量、白色粒子を微量含む。 カマドの天井部崩落層の可能性がある。
第3層	暗褐色土	焼土を比較的多く含む。炭化物を多量に含む。 ロームブロックを微量含む。カマドの焼成面の可能性がある。
第4層	焼土	小礫を数個含む。カマドの焼成面の可能性がある。
第5層	暗褐色土	ロームを少量含む。

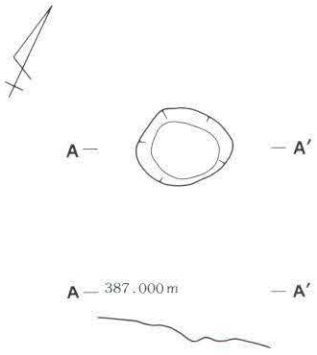
4号土坑



3号土坑　土層説明

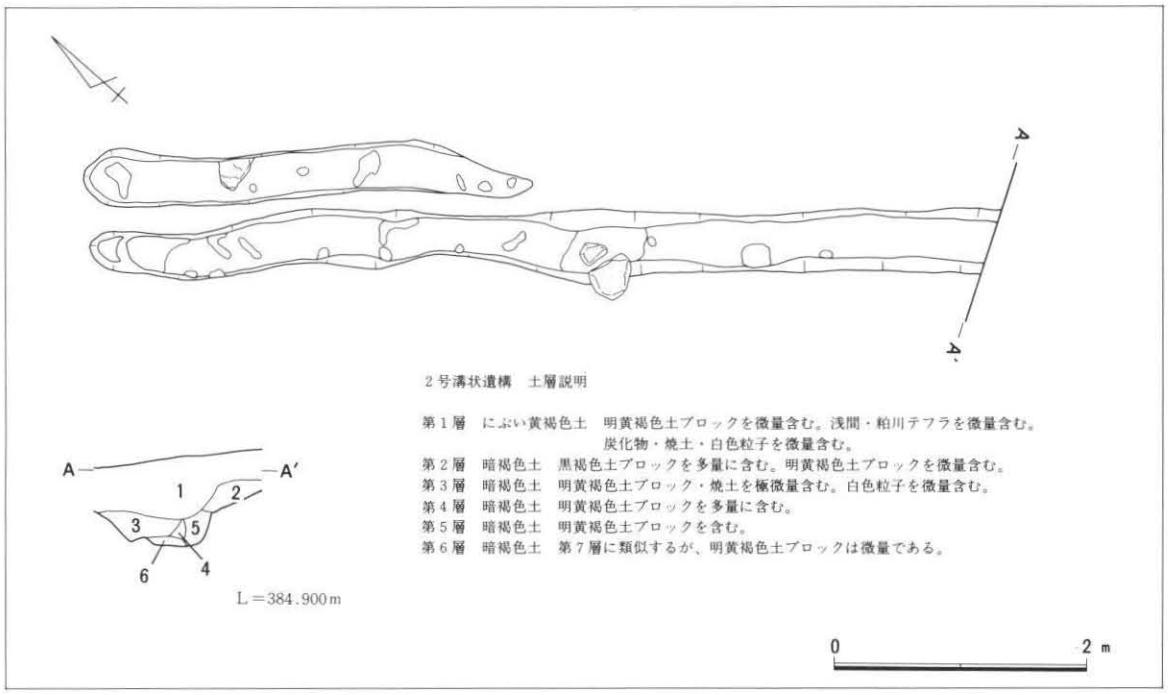
第1層	黒褐色土	FA・ロームを少量含む。白色粒子を微量含む。 砂粒を比較的多く含む。礫を微量含む。
第2層	褐色ロームブロック	黒褐色土がブロックのすきまに挟まれる。

3号土坑



5号土坑

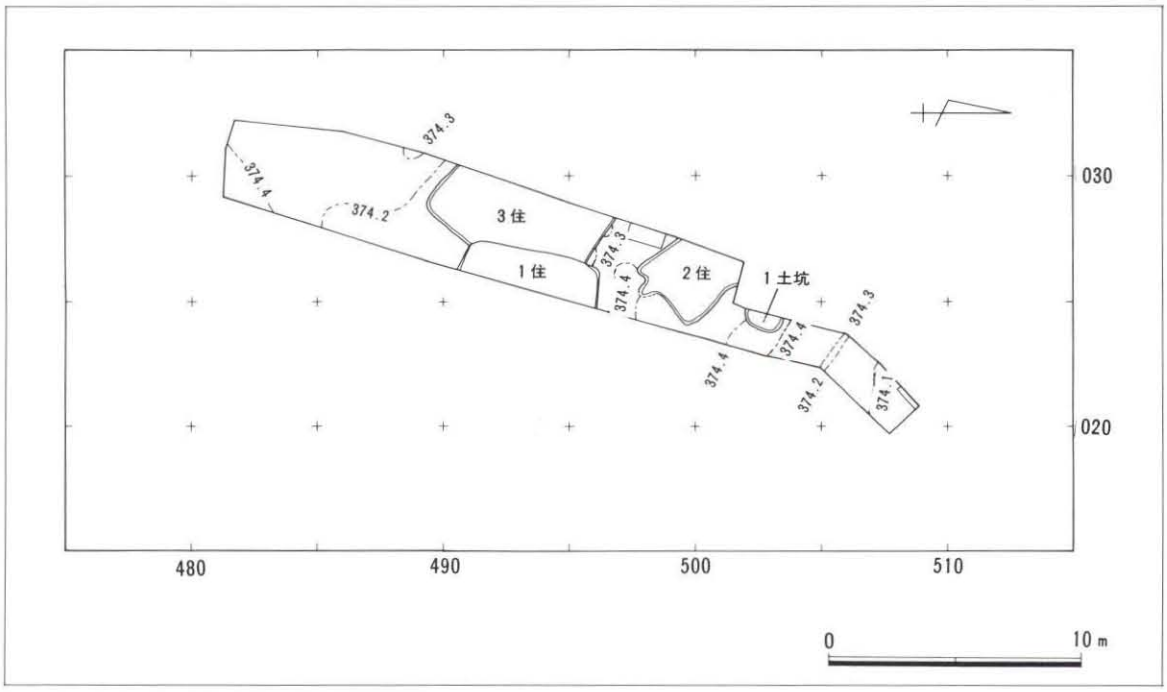
第20図　3・4・5号土坑



2号溝状遺構　土層説明

第1層　にぶい黄褐色土　明黄褐色土ブロックを微量含む。浅間・榛川テフラを微量含む。
炭化物・焼土・白色粒子を微量含む。
第2層　暗褐色土　黒褐色土ブロックを多量に含む。明黄褐色土ブロックを微量含む。
第3層　暗褐色土　明黄褐色土ブロック・焼土を極微量含む。白色粒子を微量含む。
第4層　暗褐色土　明黄褐色土ブロックを多量に含む。
第5層　暗褐色土　明黄褐色土ブロックを含む。
第6層　暗褐色土　第7層に類似するが、明黄褐色土ブロックは微量である。

第21図　2号溝状遺構

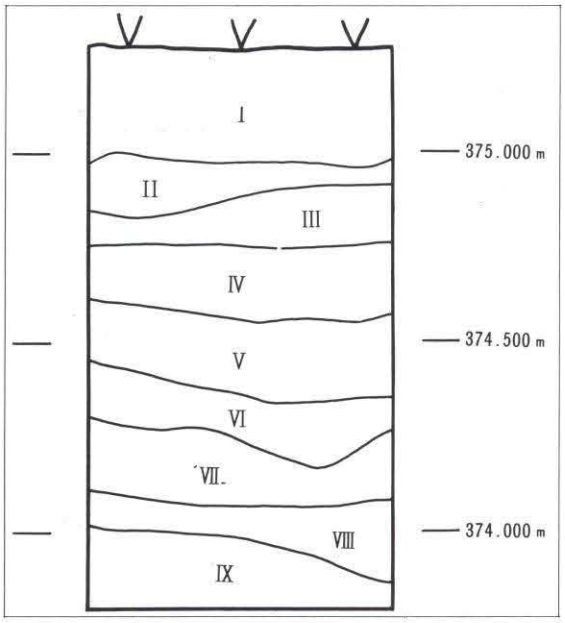


第22図　桃瀬遺跡B区全体図

Ⅴ　桃瀬遺跡Ｂ区

１　基本層序

粕川テフラが混入する表土の下層でＦＡの堆積が確認されたのは、調査区の北端及び南端付近である。北端ではやや南傾斜に堆積し、南端付近においては自然地形の斜面にそって落ち込むように５０cmもの厚さで確認された。その下には黒色土が堆積し、さらにその下にローム層が堆積している。調査区の北側では、現在の地表面からローム層まで１１０cmほどの深さである。



第２３図　桃瀬遺跡Ｂ区基本土層

Ⅰ　にぶい黄褐色土（１０ＹＲ５／１３）
　粕川テフラを少量、ＦＡブロックを微量含む。
Ⅱ　灰黄褐色土（１０ＹＲ４／２）
　ＦＡブロックを少量含む。
Ⅲ　灰黄褐色土（１０ＹＲ４／２）
　ＦＡの水平堆積の層
Ⅳ　黒褐色土（１０ＹＲ３／１）
　ＦＡブロックを微量含む。
Ⅴ　黒色土（１０ＹＲ２／１）
　ロームブロックを微量含む。
Ⅵ　黒色土（１０ＹＲ２／１）　やや茶味
　白色粒子を微量含む。
Ⅶ　明黄褐色土（１０ＹＲ６／６）
　黒色土を少量。白色粒子を含む。
Ⅷ　明黄褐色土（２．５Ｙ７／６）
　上層よりも緑味が少ない。
Ⅸ　浅間板鼻黄色軽石層

２　調査の概要

本調査に先立ち、試掘調査を中之条町教育委員会が行った。調査区は道跡脇の畑部分である。畑の端には水路があるため、試掘調査では水の影響を受けない部分にトレンチを設定した。この試掘調査で複数の住居跡が確認されたため、これらの住居跡の範囲を確認した後、トレンチ幅を広げて本調査を実施した。

調査で確認された遺構は、住居跡３軒、土坑１基である。

3　検出された遺構と遺物

1号住居跡

1号住居跡は調査区のほぼ中央（４９５－０２５Ｇ）で確認された。確認面の海抜は３７４ｍである。住居跡の壁の上部は削平されている。住居跡の東側は調査区外である。

1号住居跡は、西側の4分の1ほどが調査区内にあるだけで、カマドもこの範囲では確認できなかったので、主軸については不明である。住居跡の壁はやや緩く立ち上がっている。

覆土は比較的粘性のある黒褐色土で、ＦＡ粒子を僅かに含む。床面からはピットが3個確認され、1個は貯蔵穴と思われる。その覆土はロームブロックを多く含む黒色土である。

遺物は土師器片が僅かに出土したのみである。

2号住居跡

2号住居跡は調査区の北側（５００－０２５Ｇ）で確認された。住居跡の約3分の2が調査区内に位置する。確認面ほ海抜の３７４．４ｍである。

主軸は南東方向である。カマドの残存状態としては、東側の立ち上がりが不明確であった。焼けて橙色味を帯びたカマドの焼成面は、しっかりとした焼土で炭化物が面的に含まれていた。

床面の貼床は、しっかりとした状態では残存していないが、地山のローム層の上に暗茶味がかったローム土にて行われている。壁の立ち上がりは、やや外側に傾斜している。この立ち上がりの部分には周溝がまわっており、西側の壁の下からカマドまで確認された。ピットはいくつか確認されたが、主柱穴は不明である。遺物は、カマドから土師器の甕が出土している。

1号土坑

1号土坑は、1号住居跡の北側（５０５－０２０Ｇ）で確認された。底面はほぼ水平である。西側は調査区外であるので平面形は不明である。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

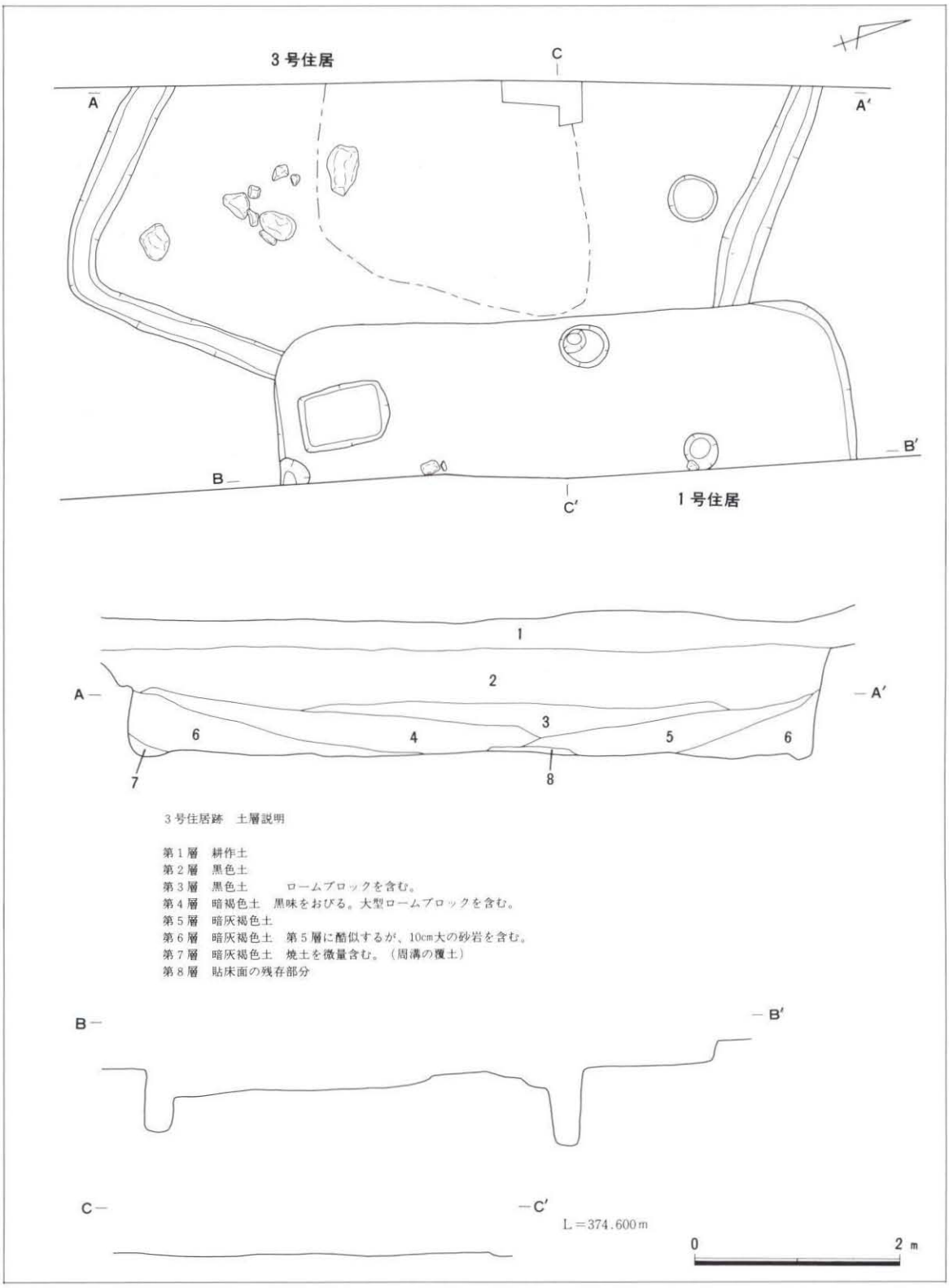
3号住居跡

調査区のほぼ中央（４９５－０２５Ｇ）で確認された。調査区内で確認されたのは住居跡の3分の2程度で、西側は調査区外である。

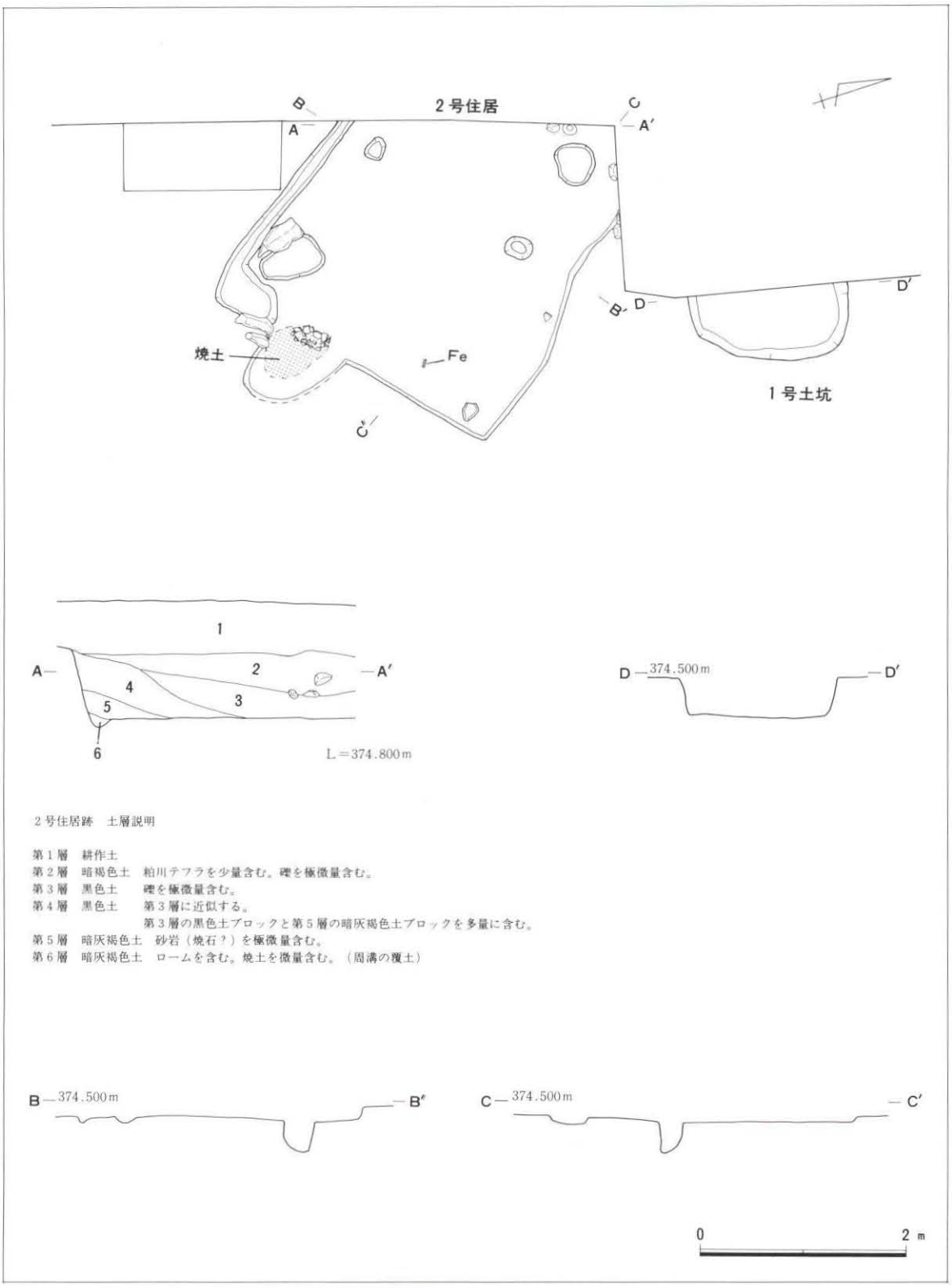
床面はほぼ水平で、中央には貼床の痕跡が残る。貼床は黒色土ブロックやＦＡ粒子を含む明黄褐色土である。カマドは確認できなかった。残存壁高は１０cmから３０cmで、壁の立ち上がりの下には、周溝がまわっている。周溝の部分の土は、焼土粒子を微量含む。ピットは3個確認できたが、柱穴と判断できたのは、東側のピットのみである。床面から遺物の出土はほとんど無かった。

土層断面は、地表面から確認できた。表土には、粕川テフラが微量に含まれるが、耕作土のためかまんべんなく混入された状態である。表土とその下層の黒色土との境の面は、鉄分のためか灰茶味を強く帯びる。黒色土は下位でロームブロックを含む。床面直上の覆土は、ＦＡブロック・ロームブロックを含んでいる。

遺物は、土師器片が若干出土したのみである。


3号住居
C
A
A′
B′
B
C′
1号住居
1
2
3
4
5
6
6
7
8
A
A′
3号住居跡　土層説明
第1層　耕作土
第2層　黒色土
第3層　黒色土　　ロームブロックを含む。
第4層　暗褐色土　黒味をおびる。大型ロームブロックを含む。
第5層　暗灰褐色土
第6層　暗灰褐色土　第5層に酷似するが、10cm大の砂岩を含む。
第7層　暗灰褐色土　焼土を微量含む。（周溝の覆土）
第8層　貼床面の残存部分
B
B′
C
C′
L＝374.600m
0
2 m

第24図　1・3号住居跡



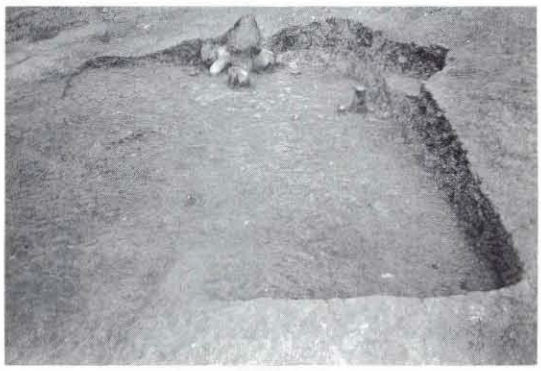
2号住居跡　土層説明

第1層　耕作土
第2層　暗褐色土　柏川テフラを少量含む。礫を極微量含む。
第3層　黒色土　礫を極微量含む。
第4層　黒色土　第3層に近似する。
　　第3層の黒色土ブロックと第5層の暗灰褐色土ブロックを多量に含む。
第5層　暗灰褐色土　砂岩（焼石？）を極微量含む。
第6層　暗灰褐色土　ロームを含む。焼土を微量含む。（周溝の覆土）

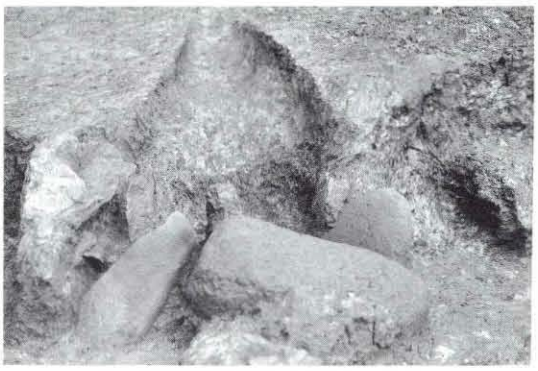
第25図　2号住居跡・1号土坑

中沢遺跡C区

中沢遺跡C区全景



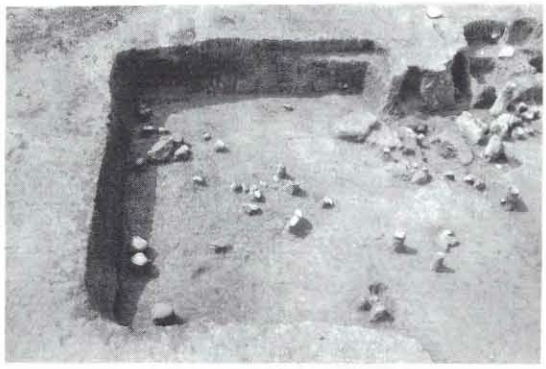
1号住居跡全景



1号住居跡Aカマド全景

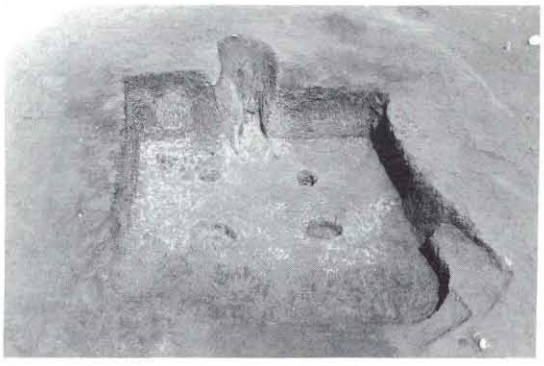
5号住居跡遺物出土状況

5号住居跡全景



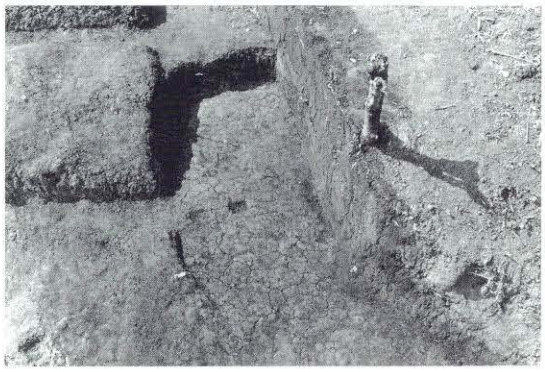
6号住居跡遺物出土状況

6・7・8・12号住居跡全景

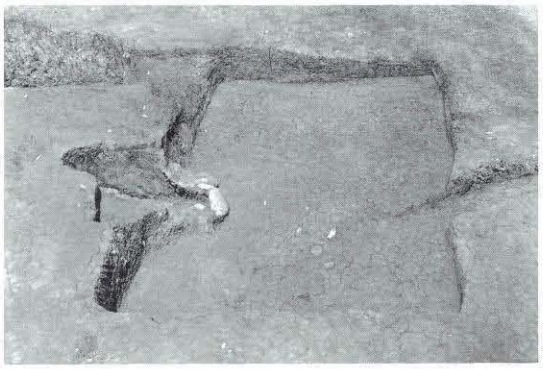


9号住居跡全景

13号住居跡・2号土坑遺物出土状況



１５号住居跡全景

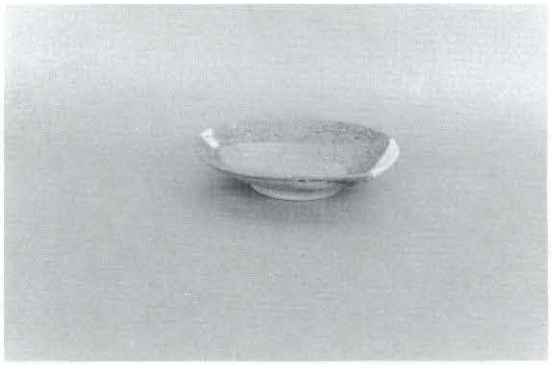


１６号住居跡全景

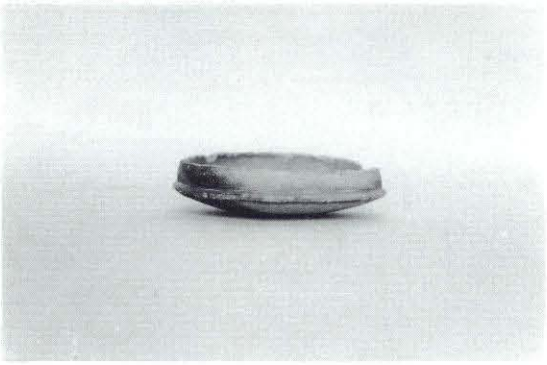
２号溝状遺構全景

１号住居跡出土遺物

３号住居跡出土遺物



５号住居跡出土遺物



８号住居跡出土遺物

９号住居跡出土遺物①

9号住居跡出土遺物②

1 5号住居跡出土遺物

桃瀬遺跡B区

2号住居跡出土遺物

中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第１４集

横尾地区遺跡群Ⅲ

県営ほ場整備事業横尾地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

中沢遺跡Ｃ区・桃瀬遺跡Ｂ区

印刷・発行　平成８（１９９６）年３月２９日

編　　集　群馬県中之条町教育委員会社会教育課

発　　行　群馬県中之条町教育委員会

〒３７７－０４

群馬県中之条町大字中之条町1901番地

ＴＥＬ　０２７９－７５－２１１１

印　　刷　大道印刷工業